

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

和仏法律学校講義録

栗津, 清亮 / 矢作, 榮藏 / 杉本, 貞治郎 / 富谷, 銀太郎 /
下村, 宏 / 加藤, 正治

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-20

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

44

(発行年 / Year)

1899-11-25

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4



毎月貳回

目

次

手形法(自四五二頁) 法學博士富谷鉢太郎

財政學(自一八四二頁) 法學士下村 宏

海商法(自一七〇二頁) 法學士加藤正治

商法保險(自一〇八一頁) 法學士栗津清亮

商法會社(自一二三頁) 法學士杉本貞治郎

新編商法講義
卷之三
第三回
每月貳回

第二貳拾號 經濟學(自四九二頁) 法學士矢作榮藏

臨時入學試験廣告

○甲種入學試験

十二月一日午前九時ヨリ施行

(注意) 甲種入學試験科目ハ左ノ如シ

國語、漢文、數學、

○乙種入學試験

十二月三日午前八時ヨリ施行

(注意) 乙種入學試験科目左ノ如シ

倫理、國語漢文、外國語、地理、歴史、數學、博物、物理、化學、習字、圖畫、

體操(中學校卒業程度)

乙種入學試験ニ因リテ入學シタル者ハ徵兵猶豫ノ特典アリ

右志願者ハ試験前日迄ニ願書ニ履歴書ヲ添ヘ差出スヘシ規則書入用者ハ郵券二錢封入申込ムヘ

明治三十二年十一月

司法省認可

和佛法律學校

コトナシ例ヘハ無能力者カ手形ノ振出人トシテ手形ヲ振出シタル場合ニ於テハ
振出人ハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ヘタ若シ之ヲ取消シタルトキハ振出人ハ固
ヨリ手形上ノ義務ヲ負フコトナシ然レトモ手形關係人ノ行為ハ之カ爲メニ影
響ヲ受ケルコトナキカ如シ此ノ如キ振出人ハ手形上債務ヲ負フコトナキモ其
支拂ノ引受ヲ爲シタル者ハ振出人ニ義務ナキコトヲ理由トシ手形取得者ニ對
シテ手形金額ノ支拂義務ナキコトヲ主張スルコトヲ得ス蓋シ手形行為ハ各獨
立ナルモノニシテ一ノ手形行為ハ他ノ行為トハ此點ニ於テハ何等ノ關係ナケ
レハナリ又例ヘハ甲者カ乙者ノ商界ニ信用アルコトヲ知リ其氏名ヲ偽造シテ
爲替手形ヲ振出シタリトセニ乙者ハ之ニ因リ手形上ノ義務ヲ負ハサルコトハ
前例振出人ノ如シ然レトモ若シ其手形ノ受取人ナル丙者カ丁者ニ裏書讓渡ヲ
爲シタルトキハ乙者ハ手形上ノ義務ヲ負フコトナキニ拘ハラス丙者ハ手形裏
書ノ義務者トシテ丁者ニ對シ償還義務ヲ負擔セサルヘカラス又右ノ場合ニ於
テ手形保證ヲ爲シタル者アルトキハ其者ハ手形所持人ニ對シ保證ニ因ル手形
義務ヲ負ハサルヘカラス

臨時入學試験廣告

○甲種入學試験

十二月一日午前九時ヨリ施行

(注意) 甲種入學試験科目ハ左ノ如シ

國語、漢文、數學

○乙種入學試験

十二月三日午前八時ヨリ施行

(注意) 乙種入學試験科目左ノ如シ

舊體、馬鹿漢文、外國語、地理、歷史、數學、博物、物理、化學、哲學、體育、體操。

乙種入學試験ニ因リテ入學シタク名ハ飯田鐵道ノ特典アリ

右志願者ハ試験前日迄ニ願書ニ送呈スベシ願書入用者ハ請書ニ記載入用込ムヘ

明治三十二年十一月

司法省監定

和佛法律學校

080
7899
2-1-20

コトナシ例へハ無能力者カ手形ノ振出人トシテ手形ヲ振出シタル場合ニ於テハ
振出人ハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ヘタ若シ之ヲ取消シタルトキハ振出人ハ固
ヨリ手形上ノ義務ヲ負フコトナシ然レトモ手形關係人ノ行為ハ之カ爲メニ影
響ヲ受クルコトナキカ如シ此ノ如キ振出人ハ手形上債務ヲ負フコトナキヰ其
支拂ノ引受ヲ爲シタル者ハ振出人ニ義務ナキコトヲ理由トシ手形取得者ニ對
シテ手形金額ノ支拂義務ナキコトヲ主張スルコトヲ得ス蓋シ手形行為ハ各獨
立ナルモノニシテ一ノ手形行為ハ他ノ行為トハ此點ニ於テハ何等ノ關係ナケ
レハナリ又例へハ甲者カ乙者ノ商界ニ信用アルコトヲ知リ其氏名ヲ偽造シテ
爲替手形ヲ振出シタリトセニ乙者ハ之ニ因リ手形上義務ヲ負ハサルコトハ
前例振出人ノ如シ然レトモ若シ其手形ノ受取人ナル丙者カ丁者ニ裏書認渡フ
爲シタルトキハ乙者ハ手形上ノ義務ヲ負フコトナキニ拘ハラス丙者ハ手形裏
書ノ義務者トシテ丁者ニ對シ償還義務ヲ負擔セサルヘカラス又右ノ場合ニ於
テ手形保證ヲ爲シタル者アルトキハ其者ハ手形所持人ニ對シ保證ニ因ル手形
義務ヲ負ハサルヘカラス

手形行為ハ嚴格ナル方式ニ依リ成立スルモノナリトノ結果トシテ若シ原手形ノ形式ニ欠缺アルトキハ手形ニ關スル總テノ行爲(裏書引受保證モ亦無効ナリ)何トナレハ基本タル手形ノ無効ハ之ニ附帶シテ成立スルコトヲ得ル他ノ行爲ノ成立ヲ妨クルコトハ必然ノ理ナレハナリ例へハ五百圓ノ金額ヲ記載シタル爲替手形ヲ無記名式ニテ拂出シタル場合ニ於テ支拂人カ引受ヲ爲シタルトキノ如シ其引受人ハ此手形上ノ義務ヲ負フコト無シ何トナレハ此場合ニ於テハ原手形自體カ適法ニ存在セサルカ故ニ縱令支拂人ノ引受行爲アリトスルモ引受ノ効力ヲ生スルヲ得サレハナリ記名式ノ爲替手形ノ振出人カ自署セサリシ場合ニ於テハ其裏書讓渡カ効力ヲ生セサル如キモ亦其一例ナリトス或ハ之ヲ以テ手形行為ハ獨立ナリトノ原則ニ反セサルヤノ疑念ヲ生スル者アラン然レトモ各手形債務ハ獨立シテ成立スルモノナリトノ規則ハ基本タル手形カ適法ニ成立シタルコトヲ前提條件トスルニ依リテ存スルモノニシテ根本タル手形ニ形式ヲ缺ク場合ト雖モ爾後ノ手形行為カ成立スト謂フニ非サルナリ要スルニ手形行為ノ獨立トハ原手形形式カ完全ニ具備シ有効ニ成立シタルトキ之ニ依

リテ爲シタル行為ニ付キ謂フヘキモノナリ(第四三五條第四三七條參照)

二 手形ノ債務ニハ原因ヲ必要トセス 此點ハ益以テ手形上ノ債務ハ嚴格ナル形式ニ依リ存スルモノナルコトヲ表示スルモノナリ法律上形式ニ適合スル手形自體ハ即チ手形債務ノ原因ナリ換言スレハ手形債務ハ法律ノ規定ニ從ヒテ作成シタル手形カ存スル以上ハ其成立スルニ至リタル理由ノ如何ヲ問ハス直チニ成立ス蓋シ手形債務ハ手形ノ形式ヲ具備シタル書面ニ依リテ直チニ成立シ其成立ノ原因ヲ問ハストノ規定ハ前項ニ於テ述ヘタル如ク手形ハ峻嚴ナル方式ニ依リテ成立スト云フ規定ト相待テ缺クヘカラサルモノナリ何トナレハ手形債務ハ手形ノ作成ニ依リテ直チニ成立スルモノナリトスルセ若シ其成立シタル債務原因ニ遡リテ債務ノ有無ヲ争フコトヲ許スニ於テハ手形ハ到底安全ニ容易ニ流通スルコトヲ得サルノ結果ヲ生スレハナリ若シ手形ヲ取得セント欲スル者ハ手形ノ支拂人ハ果シテ手形以外ニ於テ其支拂ヲ爲ス義務ヲ有シ支拂ヲ承諾シタル者ナリヤ否又償還請求ヲ受クヘキ者ハ既ニ手形ノ對價ヲ受取りタルニ因リテ償還ノ義務ヲ有スルヤ否ヲ調査スルコトヲ要ストセン

カ手形ハ裏書ニ依リ又受渡シノミニ依リテ移轉スルコトヲ得ス隨テ流通證券タルコト能ハサルナリ故ニ手形ノ債務ハ手形ノ存立ノミニテ成立スルモノト

爲サハルヘカラサルヤ明カナリ舊商法ニ於テハ特ニ之ニ關スル條文ヲ設ケタリシモ改正商法ハ之ヲ刪除シタリ蓋シ事理當然ナルニ因ルナリ

三 手形債務カ峻嚴ナルコトハ手形債務者カ手形債權者ニ對抗シ得ヘキ抗辯事由ノ制限ニ於テ其著シキヲ見ルヘシ手形債務者カ手形上ノ權利ヲ行フ者ニ對シテ對抗シ得ヘキ事由ハ他ノ一般法律行爲ニ於ケルモノト同シカラス其對抗シ得ヘキ事由ハ手形ノ規定上特ニ定メタルモノ又ハ債務者ヨリ債權者ニ對シ直接ニ對抗シ得ヘキモノナラサルヘカラス例へハ手形ノ形式カ具備セサルコト裏書ニ間断アルコト(第四六八條呈示期間ヲ經過シタルコト(第四六六條二項第五二七條二項)手形上ノ手續ニ欠缺アルコト等ヲ以テ抗辯ノ事由ト爲スカ如キハ法律ノ規定ニ依ルモノナリ第四四〇條第四六七條二項第四七二條二項第四八二條二項第四八七條二項第四八八條第四九〇條二項第五〇〇條一項第五〇五條第五〇八條三項第五二一條二項第五二八條二項第五三三條二項參照)

次ニ直接ノ抗辯トハ例へハ手形ノ債務者カ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其請求者ハ惡意ノ手形所持人ナルコト即チ僞造變造ノ手形ナルコトヲ知リテ讓受ケタル者ナルコトヲ以テ抗辯ノ事由ト爲ス場合又ハ詐欺強暴ニ因リテ手形ヲ作成シタル手形債務者ハ詐欺強暴者ニ對シテノミ之ヲ以テ抗辯ノ事由ト爲スコトヲ得ヘキ場合ノ如シ故ニ若々其手形カ轉帳シテ善意ノ取得者ニ歸シ又ハ詐欺強暴者以外ノ所持人カ之ヲ取得シタルトキハ復タ右ノ事由ヲ對抗スルコトヲ得ナルナリ

四 手形債務ハ峻嚴ナル法則ニ從フコト右ニ説明シタルカ如クナルノミナラス手形權利ヲ行フ者モ亦峻嚴ナル規定ノ下ニ在リテ其權利ヲ行使セサルヘカラス例へハ手形ノ所持人カ完全ニ其權利ヲ保全セントスルニハ満期日又ハ其後二日內ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且儀還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絶證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要スルカ如シ手形ノ支拂ナカリシトキハ嚴格ナル要式證書ニ依リテ支拂ナカリシコトヲ證明シ一定ノ期間内ニ償還ノ通知ヲ發スルニ非サレハ權利ヲ喪失スル結果ヲ生スヘ

シ第四八七條二項、第四八八條二項、第四九〇條二項而シテ此拒絕證書ノ作成、償還請求ノ通知ノ如キハ手形上ノ權利ヲ保全スルニ必要ニシテ他ノ行爲ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ナルナリ

五一 手形上ノ債權ハ書面ニ依リテ生スルモノナリトノ結果トシテ其權利ハ手形證券ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス若シ手形債權者カ手形ヲ失フトキハ其權利ハ必シモ之ヲ失フモノニ非スト雖モ權利喪失ノ結果ヲ來スコトアルフ免レナルナリ手形債權者カ手形上ノ權利ヲ行使スルニ其手形ヲ要スルコトハ種々ノ場合アルモ殊ニ第四百八十三條、第四百九十五條ニ於テ明カニ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ

手形上ノ債權ハ手形ヲ喪失スルニ因リ必シモ之ヲ喪失スルニ非サレトモ手形ノ喪失ハ事實上頗ル危險ニシテ或ハ權利ヲ行フコト能ハサルニ至ルコトアリ何トナレハ手形ヲ紛失シ又ハ窃取セラレタル場合ニ於テハ拾者、窃取者ニ對シテハ手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ其手形カ轉帳タテ善意且過失ナキ第三者ノ占有ニ移リタルトキハ復タ之ヲ取戻スニ由ナク終ニ其權

利ヲ行フコトヲ得サルニ至レハナリ(第四四一條)益シ手形ヲ紛失シテ其所在ヲ知ル能サルトキハ公示催告ノ方法ニ依ル權利保護ノ道ナキニ非スト雖モ然レトモ其目的ハ必ス之ヲ達スルコトヲ得ルモノト謂フヘカラス何トナレハ公示催告中善意ニ且過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者アリテ其權利ヲ行使スル場合ニ於テハ公示催告ヘ何等ノ効果ヲ生セナレハナリ(第四四一條第二八一條民訴第七七一條乃至七八五條)

右ニ述ヘタル如ク手形債務ハ極メテ峻嚴ナル規定ニ依リ存スルモノナルカ故ニ利害關係人ノ爲メ且手形ノ流通上此規定ヲ融化スル特別規定ヲ要ス即チ手形債權ハ他ノ一般商行為ニ因ル債權ニ比ズレハ短期間ニ於テ時効ニ罹ルモノトセリ第四四三條現行商法ノ規定ニ依レハ手形債權ノ時効ハ主タル債權及ヒ償還請求權ニ付キ其期間ヲ同一ニシ總テ三年トセリ改正商法ニ於テハ之ニ修正ヲ加ヘ主タル債務者ニ對スル場合ト償還義務者ニ對スル場合ト區別シ其時効期間ヲ異ニシ主タル債務者ニ對シテハ手形上ノ債權ハ満期日ヨリ三年ヲ經過スルトキハ消滅スルヲ原則トシ償還義務者ニ對スル債權ハ此權利ヲ行フ

ヘキ者ノ地位ニ依リテ其起算點ヲ異ニスト雖モ時効ノ期間ハ總テ六ヶ月トセ
リ即チ所持人カ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絶證書作成ノ日ヨリ起算
シテ六ヶ月裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハシタル日ヨリ起算
シテ六ヶ月トスシク時効ヲ短縮シタル理由ハ手形ノ流通ヲ容易ナラシムル爲
メニ外ナラス右ノ外手形時効ノ効力手形義務消滅ノ抗辯ノ方法時効ノ中斷停
止不可抗力ニ因ル時効期間ノ延長等ノ如キハ民法ノ規定スル所ニ從ヒ商法ニ
於テハ別ニ之ヲ規定セス(第四四三條第一條民法第一四四條乃至第一六一條商
施第一二三條)

第四 手形債務ニ關スル不當ノ利得

前ニ述フルカ如ク手形ノ債權ハ極メテ嚴格ナル規定ニ支配セラル、ノミナラ
ス其存續スル時期エ亦一般債權ヨリ短縮セラレタリ是レ手形ノ流通ヲ容易ナ
ラシメ且其信用ヲ確保スルニ缺クヘカラナルニ由レリ然レトモ手形法則ノ嚴
格ナルカ爲メ手形債權ヲ行使スルコト能ハサリシ者又ハ手形時効カ短期間ニ
満足スル爲メ或事情ニ因リ權利ヲ保全スルコト能ハサル者ナキヲ保スヘカラ

トアリ又政府ノ直接發行法ハ請負發行法ノ如ク所定ノ總額ヲ得ルコトヲ確保
スルコト克ハサルヲ以テ勢ヒ此カ募集ノ失敗ニ了ラサランカ爲メ利子歩合ヲ
高クスル等其國債ノ體様ニ於テ不利ナル條件ヲ以テスルヲ例ト爲スヲ以テ徒
ニ巨額ノ失費ヲ見ルコト多シト爲スモノナリ

國債募集ノ成功ノ有無ハ應募額ト募集額ト相一致スルニ存シ應募額ノ募集額
ニ下ルコト大ナル場合ハ固ヨリ全然失敗ニ了リシモノナルト同時ニ應募額ノ
募集額ニ上ルコト大ナル場合モ亦等シク失敗ニ了リシモノト謂ハズンハ非ス
如何トナレハ應募額ノ募集額ニ上ルコト大ナリトハ所要ノ募集額ヲ得ルニ足
ル可キ條件ヨリ不件ナル體様ヲ以テセルコトヲ示スモノナリ所要ノ貨財ヲ購
買シ得サル場合モ所要ノ貨財ヲ非常ナル高價ニテ購買シタルト共ニ失敗ニ
テハ一ナレハナリ而シテ政府ノ直接發行法ニテハ需要額ヲ得ルノ難キヲ過感
スルカ爲メ募集額ヲ低下スルノ弊多キヲ以テ投機ヲ目的トスル申込ヲ挑撥シ
應募額大ニ募集額ニ超過シテ投機ノ獎勵ヲ爲スコト多ク政府ハ一方ニ募集取
扱制限等ノ手數ヲ要スルノミナラス一方ニハ民間ノ有力者賣力ヲ盡シテ募集集

ニ應シ爾後必要ノ結果トシテ伴フ可キ國債ノ騰貴ニ由リ之カ再買ヲ試ミ徒ニ此等少數ノ者ニ壟斷セラル、利益ハ遙ニ請負發行法ノ場合ニ銀行ニ與フル請負手數料ヲ超過スルコト數百倍ニ上ルノミナラス投機獎勵ノ害毒ヲ流スコト無キヲ保セサルナリ

應募額カ大ニ募集額ニ超過スルコトハ各國其例ニ乏シト爲ナス千八百六十八年ノ佛國國債ハ應集額應募額ノ三十倍ニ達シ三十億法國債募集ノ時成ハ十三倍ニ上リ露西亞ニ「アストゥオ」ヲレンボルグ間ノ四百萬圓ノ鐵道社債ハ四十倍ニ達シ千八百七十四年「ヴィスチール」「ツラル」間ノ五百三十三萬圓ノ鐵道社債同年葡萄牙政府ノ鐵道國債ノ如キ共ニ百倍ニ上レリ此等ノ現象ハ明カニ應募額ノ募集額ニ下ルコトヲ惧ル、ノ餘不當ニ證書ノ價格ヲ廉ニスルカ爲メ投機者流ノ應募ヲ盛ニシタルコトヲ示スモノニシテ彼ノ佛蘭西巴里府ニ於テ千八百七十六年ニ應募セシ國債ノ如キ當時ノ佛蘭西經濟雜誌ニ於テボリヨー氏ノ如キ九十六ニテ發行ス可キコトヲ論述セルニ拘ハラス九十三ニテ發行セラレ未タ十日ヲ經サルニ該證書ハ

九十七乃至九十八ニテ賣却セラレ政府ハ徒ニ三分餘ヲ失ヒタリ此ノ如ク政府ノ直接發行ハ價格ヲ低下シ利子ヲ高ムルノ不利多クシテ結局實質上ノ請負發行法ト爲リ其弊害尠シト爲サス寧ロ公然請負法ニ依リテ資本家申請負ニ對スル競争ヲ利用シテ市場相當ノ價格ヲ以テ發行シ而モ安全ニ所要ノ額ヲ收得スルノ便ナルニ如カス況ヤ公衆ハ又政府ノ募集ニ應スルノ不便ヲ避ケテ銀行ニ依ルヲ便ト爲スニ於テヲヤ

千八百七十五年及ヒ千八百七十六年巴里府ノ國債募集ノトキハ公衆ハ當初募集ニ應セス其後八分若クハ割丈ヶ平價以上ニテ證書ヲ銀行ヨリ買入レシ者妙カラス蓋シ直接發行法ニ在リテ苟モ事實應募額カ募集額ニ超過スルカ如キ應募者ニ利益アル場合ナランニハ高價無減法又ハ少額無減法等何レノ方法ヲ執ルモ結局其大部分ハ當ニ銀行家ノ手ニ暨ツ可キニト知ル可キナリ

代理發行法ハ單ニ直接發行法ノ事務取扱ニ付キ銀行カ代理スルニ止マルヲ寧ヨ一種ノ直接發行法ト看ルヲ便宜ト爲スノミナラス其利害關係ニ於テ二者頗

ル相類似セル所アリ而シテ此等方法ノ利害問題ニ付キ既ニ上述スル所ニ據リ
請負發行法ヲ以テ利便ナリトスルハ各國ノ實例ニ徵スルモ亦殆ト言フ俟タサ
ル所ナリトス而シテ現時資本ノ増殖年々逐フテ大ヲ加ハリ銀行ノ數遞増シテ
國際間ヲ通シ金融ノ利便アルニ至リテハ特ニ一定ノ銀行又ハ資本家ノ組合ト
約ヲ定メテ請負ハシムルノ要ナク此カ請負ヲ一般ノ競争ニ付シ其銀行又ハ資
本家ノ組合中最モ高價ニテ買入ル可キ者ニ之ヲ請負ハシムルノ法ヲ執ルニ至
リシヲ以テ銀行等ヲシテ巨利ヲ壟斷セシムルノ非難ヲ除去スルコトヲ得可キ
ノミナラス所定ノ募集額ヲ確實ニ收得スルノ利アルヲ以テ金融市場ノ狀況ニ
暗キ政府カ進ミテ直接發行ノ衝ニ當ルハ殆ト近時各國ノ執ラサル所ニシテ唯
代理發行法ニ至リテ其例ヲ見ルアルノミ

英國ニ在リテハ第十七世紀ヨリ十八世紀ノ初期ニ至ルノ間ハ重ニ代理發
行法ヲ用ヒ英蘭銀行ヲシテ代理ノ衝ニ當ラシメタリ其後ツヰリヤム、ビツ
トノ時ニ至リ競争請負發行法ヲ行ヒ爾後一二ノ例外ヲ除クノ外ハ總テ競
争請負發行法ヲ執レリ又佛國ニ在リテハ今世紀ニ於テハ中頃那破崙三世

カ直接發行法ヲ執リシ外ハ概シテ競争請負發行法ヲ執リ近時歐米各國ハ
皆競争請負發行法ヲ執ルフ原則ト爲セリ我邦ニ在リテハ専ラ日本銀行ニ
由リ代理發行法ヲ執ルモ其募集費ハ外國ノ場合ニ比シテ僅少ナルカ故ニ

代理發行法トシテハ比較的的良好ナルモノニ屬セリ

直接發行法トシテハ既ニ上述スル所ノ如シ然レトモ此方法ニ附帶シ
テ低價遞減法及ヒ高額遞減法ヲ行フトキハ又多少ノ利益ナシト爲サス此等ノ
遞減法ハ請負發行法ニ於テハ之ヲ望ムコト難キヲ以テ代理發行法等ニ此等ノ
遞減法ヲ用フルトキハ又特種ノ効果ヲ有ス可キモノナリトス

低價遞減法トハ應募高募集高ニ超過スルトキハ應募價格ノ高キ者ヨリ漸次ニ
證書ヲ交付シ政府ノ募集高ニ満ツルヲ以テ之ヲ止メ其同價ノモノニ對シテハ
應募額ニ比例シテ之ヲ削減スルモノニシテ又高價發行法高價無減少法ト曰フ
蓋シ直接發行法及ヒ代理發行法ニ在リテハ政府之カ募集ノ衝ニ當ルモノナル
ヲ以テ政府ノ信用ヲ維持シ國債募集ノ成功ヲ熱望スルノ餘低價高利ノ弊ニ陷
リ易ク其極應募高募集高ニ數十倍スルカ如キ失態ヲ見ルコト多キハ既ニ上述

スル所ナリ隨テ此等ノ場合ニ於テ政府カ低價遞減法ヲ行フ旨ヲ明カニセハ應
募者ハ其申込ノ全額ヲ受取ルコト能ハサルコトアレテ發行價格以上ノ申込
ヲ爲シ需要供給ノ原則上自然ニ價格ノ昂騰ヲ來シテ市場相當ノ價格ニ至ルヲ
例ト爲シ低價高利ニ因ル弊害ヲ減殺スルコトヲ得可キモタリ

低價遞減法ノ實例ハ各國其例ニ乏シカラス今我邦ニ於ケル實例ノ重ナル

モノヲ舉レハ次ノ如シ

明治十七年ヨリ十八年マテ三回ニ發行セル中仙道鐵道公債ノ我邦ニ於テ
低價遞減法ヲ以テ募集セシ嘴矢ニシテ第一回ノ發行額面高ハ五百萬圓、發
行價格ハ百圓ニ付キ九十圓トシ其實收額ハ四百五十萬三百九十六圓ニ上
リ第二回ハ發行額面高ハ一千萬圓、發行價格ハ百圓ニ付キ九十圓トシ其實
收高ハ九百萬六千八百八十四圓ニ上リ第三回ノ發行額面ハ五百萬圓、發行價
格ハ百圓ニ付キ九十五圓ニ改メ其實收高ハ四百七十八萬四千六十八圓ニ
上レリ

明治十九年ヨリ二十年マテ四回ニ發行セル海軍公債第一回ノ發行高ハ五

百萬圓ニシテ實收高ハ五百十八萬七千八百圓ニ上リ其最高價格ハ百圓ニ
對シ百十圓ノ多キニ上リタリ(第二回以下省略)

明治十九年ヨリ二十五年マテ前後八回ニ發行セル整理公債ハ第一回ニハ
百圓ニ付キ發行價格九十八圓ト爲シ他ハ總テ平價發行ト爲セシカ實收高
ハ常ニ百圓ニ超過スルコト四五錢ヨリ多キハ三圓餘ニ達シタリ

明治二十二年發行セル鐵道費補充公債ノ如キハ平價發行ナリシモ實收額
ハ百圓ニ付キ百三圓十五錢強ニ上リ募集額ニ超過スルコト七千〇九十一
圓ニ達シタリ

其他鐵道公債軍事公債等何レモ低價遞減法ニ由リ皆多少ノ成效ヲ見ルニ
至レリ然レトモ注意ヲ要ス可キハ低價遞減法ヲ用ヒテ之ニ因リテ削減セ
ラル、申込額ノ大ナル丈ケ又其最高價格申込ノ高大ナル丈ケ一方ニハ政
府カ公債ノ募集ニ對シ低價高利ノ甚シカリシコトヲ證明スルニシテ
其高價遞減法ノ成功大ナル丈ケ政府當初ノ豫定ノ事實ニ違カルコトヲ現ハ
スモノナリ

高額遞減法トハ應募高募集高ニ超過スルトキニ一定ノ申込額以上ノモノニ限リ其申込高ニ比例シテ之ヲ削減スルモノニシテ又小額無減少法、小額發行法ト曰フ此方法ハ主トシテ社會政策主義ヲ加味セルモノニシテ下級人民ノ手ニ落ツル所ノ證書ノ數ヲ增加シ應募者ノ數ヲ大ニシテ公債證書ノ普及ヲ期スル良策ナリトス即チ一方ニハ漸次下級人民ヲシテ賒債獎勵ノ端緒ヲ發シ一方ニハ一部ノ資本家ノ投機ノ具ト爲ルコトナク之カ證書ノ普及ハ之ニ對スル利害關係者ノ數ヲ増スニ外ナラサルヲ以テ政府ノ信用社會ノ安寧維持ニ對シ又多少ノ効果ナシトセス此法ハ佛蘭西ニ於テ最モ多ク用ヒラレ我國ニ在リテモ整理公債ノ普通募集ノ場合ノ如キ又等シク此法ヲ行ヒタリ

第五節 國債ノ條件ヲ標準ト爲ス國債募集方法ノ分類

第一款 割増平價及ヒ割引發行法

割増發行法トハ額面高以上ノ價格ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高償還高ヨリ大ナル場合ナリトス此方法ハ其他ノ條件ノ如何ニ由リ又ハ市場遊金ノ多少國債其モノ、性質政府ノ信用ノ大小等ニ由リ此ヲ起スコトヲ得サルニ非サレ

トモ徒ニ人民ノ感情ヲ害スルノ嫌ナシト爲サヘルノミナラス寧ロ利子其他ノ條件ヲ變更シテ平價發行ヲ爲シ得可キモノナルヲ以テ實際ニ殆ト其例ヲ見ナル所ナリトス
平價發行法トハ額面高ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高償還高ト相等シキ場合ナリトス
割引發行法トハ額面高以下ノ價格ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高償還高ヨリ小ナル場合ニシテ又呼價發行法ト稱セラル、モノナリ蓋シ割引發行ノ必要ハ多ク政府發行ノ公債ノ利子カ一般市場ノ利子ヨリ低キカ若クハ募集ノ結果市場ノ利息昂騰シテ國債ノ利息ヨリ上ル可キ場合カ或ハ政府ノ信用薄弱ナル等總テ募集困難ノ際ニ於ケルノ調和策トシテ用ヒラル、モノニシテ近時ハ一般ニ利子其モノ、歩合ヲ變更スル代りニ割引ノ高低ヲ爲スモノ亦勘シト爲サス今其利益ナリトスル重ナル點ヲ擧クレハ次ノ如シ
第一 割引發行ノ場合ニハ低價遞減法ニ依リテ實際豫定ノ價格ヨリ多額ノ實收額ヲ得可キコト

北米合衆國ニ於テ大藏大臣ガラチン氏二百萬弗ノ公債ヲ募集スルニ際シ
額面百弗ニ付キ總テ九十三弗マテノ等差アリシモ總テ之ヲ九十三弗ニテ發
弗ニ付キ平價ヨリ九十三弗マテノ等差アリシモ總テ之ヲ九十三弗ニテ發
行シタリ然レトモ此ノ如キ極端ナル公平ハ商業上ニ於テ行ハル、コト無
キノミナラス經濟上需要供給ノ原則ニ依ルモ強テ九十三弗ニ一致セシム
ルヨトハ却テ公平ノ實ヲ擧クルモノト謂フ可カラス如何トナレハ應募者
ノ各自其融通シ得ル資本ニ對スル事情國債ノ信用利益ニ對スル需要ノ程
度ハ各自其趣ヲ異ニスルノミナラス國債其モノ、價格ハ他ノ貨物ノ價格
ノ如ク精確ヲ得可キモノニ非サレハナリ故ニ此ノ如キ極端ナル例ハ一般
ニ執ラサル所ニシテ隨テ低價遞減法ニ依リ多額ノ實收額ヲ見ルコト其例
多シト爲スモノナリ

第二 割引發行ハ平價發行法ヨリモ利子低廉ナルカ故ニ外見ニ於テ政府ノ信
用大ナルカ如キ觀アルコト

第三 利子ノ歩合比較的低下ナルニ由リ表面上人民ノ負擔上一般ノ感情ヲ害

スルコト尠キコト

第四 平價發行法ニ比シテ政府ノ實收額大ナルコトヲ得可シ即チ今平價發行
ノトキハ A ナル額ニ對シ五分利附ナリトシ之ヲ B ナル額ニ割引スルトキハ四
分利附ト爲ル可キ場合ニ於テハ事實四分利附ニテ B ナル額マテ割引スルコト
ヲ要セス B ヨリ多キ額ニテ猶ホ四分利附ヲ以テ募集スルコトヲ得可キコト

第五 利息制限法ニ依リテ平價募集ヲ爲ス能ハサル場合ニ於ケル調和ノ手段
ト爲ルコト

割引發行法ハ英國ニ於テ北米合衆國獨立戰爭ノ後、ウヰリヤム「ビット」カ當時國
事多端ニシテ利息ノ歩合高キヨリ利息制限法ヲ避ケルカ爲メ實收高百磅ニ對
シ三分利附ノ百八十磅或ハ百九十磅ノ證書ヲ發行セルニ始マリ爾後各國ニ於
テ盛ニ行ハル、所ナリ殊ニ英國ノ如キハ此外平價發行法ニ年金ヲ附帶シテ事
實上割引發行法ヲ行ヒ千八百五十五年クリ「戦争ノ爲メ起セシ一億六千萬
圓ノ國債ニ二分ノ利子ヲ附シ千圓ノ拂込ニ對シテ三十年間七圓二十四錢ノ年
金ヲ附スルカ如キ近時ニ至ルモ猶ホ此錯雜ニシテ弊害多キ方法ヲ慣行セリ我

邦ニ於テモ明治十一年ノ起業公債ニ於テハ六分利附ニテ額而百圓ニ付キ八十
圓ノ割引發行法ヲ行ヒ近時軍事國債ニ至ルマテ割引發行法ヲ行ヘル例尠シト
爲サス
割引發行法ニ於テ前掲利益アリト爲ス點ハ第一ノ如キ平價發行法ニ於テモ等
シク低額遞減法ヲ行フコトヲ得可キヲ以テ割増發行法ニ特有ノ利益ト爲ス可
キノミナラス第二第三ノ如キハ固ヨリ表面上一時ノ利益ノ假現ニシテ却テ後
來ニ重大ナル害毒ヲ貯スモノタリ又第五ノ如キハ昔時利息制限法ノ規程存セ
シ時代ニ於ケル理由ノ一タルヲ失ハサル可キモ今日ニ於テハ利息制限法其モ
ノカ一般ニ認メラレサルヲ以テ復割増發行法ノ利益ト認ム可カラス而シテ
第四ハ結局一種ノ割増公債ト同シク應募者ニ於ケル射利心投機心ヲ利用スル
モノナリ即チ平價發行ノトキハ平價以上ニ上ルトキハ政府ハ進ミテ借換ヲ行
ヒ其價格ノ變動ヲ防クコトヲ得可キニ依リ割引發行ノ場合ノ如ク變動ノ區域
大ナルコトヲ得ス又平價發行ノ證書ノ利子ハ高シトモ割引價格ト償還價格ノ
差異ニ由ル利益ノ如ク大ナルヲ得ス而シテ年々抽籤ニ由ル償還ニ由リ應募者

カ早ク當籤ス可シトノ僥倖心ニ由リ平價發行ノ場合ヨリ利子及ヒ割引額ノ歩
合ニ因リテ多少ノ利益ヲ得ルコト無シト爲サス即チ真ニ時齢ノ方便トシ資本
ノ利殖ノ方便ト爲ス者ニ在リテハ利害關係勘キモ其證書價格ノ高低ニ依リテ
利益ヲ博セントスル投機者流ノ最モ歓迎スル所タル可キハ又言ヲ俟タサルナ
リ

割引發行法カ一時利子ノ支拂ヲ輕減シ時ニ平價發行ヨリモ多少ノ實收ヲ増
可キハ事實ナリト雖モ之ニ伴フ弊害ハ遙ニ之カ利益ヲ超過スルモノナリ如何
トナレハ居常多少ノ利子支拂ニ於テ輕減セラル、モノハ償還ノ際ニ於テ一時
ニ巨額ノ支拂ヲ爲ス可キモノナルヲ以テ此カ償還ノ時期漸次延期セラレ償還
ノ困難ヲ助長スルハ定期國債ノ下ニ於テ述ヘタル所ト異ナルコトナシ而シテ
其最モ通弊ト爲ス所ハ此カ借換ノ困難ナルニ在リ割引發行法ノ利子ハ市場ノ
利子ヨリ歩合低キノミナラス國債募集後市場平穩ト爲リ年ヲ逐フテ金利漸次
下落スレハ平價發行法ニ依ルモノハ便宜之カ借換ヲ爲シ得ルニ拘ハラス割引
發行法ニ在リテハ之カ利便ヲ失ヒ平價發行法ノ場合ニ比シテ多少ノ損害ヲ甘

ンス可キ觀ヲ生シ結局未來ニ重大ナル義務ヲ殘スコト平價發行法ヨリ大ナリト謂ハスンハ非ス北米合衆國ノ如キ割引發行法ノ比較的無事ニ償還セラル、ハ一方ニハ其發行度數少キト一方ニハ產業隆盛ニシテ民富遞増シ國庫ノ剩餘金又多キニ由ルモノニシテ千八百六年ガラテン氏ノ財政報告ニ於テハ割引發行法ノ國債償還ニ阻碍ヲ與フルコト大ナルコトヲ論シ三分利附公債ニ或變更ヲ行フ可キ權限ヲ與ヘラレントヲ請ヘリ而シテ之ヲ歐洲各國ノ實例ニ徴スレハ近時國債ハ巨額ニ累積シテ久シク償却セラル、コトナク「ルロアボリュ」氏ノ如キ歐洲諸國ノ國債ノ永續スルコトハ其原因專ラ割引發行法ニ存スルモノナリト言ヘリ

第二款 簽札附發行法

簽札附發行法トハ證書ニ簽札ト云フヲ附シ利拂ノトキ證書ノ所有者ニ抽籤ヲ行ハシメ其當簽者ニハ所定ノ利子ノ外更ニ若干ノ金額ヲ與フルノ方法ナリ其人民ノ射幸心ヲ目的ト爲スハ割引發行法年金附發行法ト相異ナルコトナク其利害問題モ亦絕對ニ之ヲ論定シ難キコトハ上述スル所ナリ本論ニ就テ

第三款 限地發行法及ヒ限人發行法

限地發行法及ヒ限人發行法トハ通常特別募集ト稱セラル、モノニシテ政府カ或事業ヲ起スニ際シ此カ國債ヲ其事業ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル土地又ハ人民ニ對シテ募集スルモノナリ此方法ハ國債ノ條件其モノヲ標準ト爲スニ非ヌテ應募者ノ主體ヲ標準ト爲スモノナレトセ便宜ノ爲メ此ニ述フルコトハ爲セリ
此方法ノ利益ハ爲メニ利率發行價格等ニ於テ一般ノ募集ヨリ政府ニ於テ多少ノ利益ヲ得ルニ在リ佛蘭西ニ於テハ各都市ノ公共事業ニ於テ此例ニ依リシモノ多ク其募集ノ方法ニ其所在ノ人民ヨリ募集スルヨリモ其所在ノ地方團體商業會議所等カ請負發行法ヲ爲スヲ例ト爲セリ今世紀ノ下半期ニ於ケル「ハーヴル」「マルセイユ」「ボルドー」「ドンケルク」「ローラン」「ガレイ」其他六港ノ築港事業ノ如キ多ク此例ニ從ヘリ千八百七十年佛蘭西兵制改革ノ結果トシテ諸方ニ鐵

臺ヲ設置スルノ要ヲ見ルヤ又特別募集ニ由リ三千二百餘萬圓ノ借入ヲ爲シ其
貸付ケシ都市ノ數凡ソ八十五ノ多キニ上レリ
或特定ノ土地又ハ人民ニ利害關係大ナルモノハ多クハ地方債ニ現ハレ又國債
ニ於テモ之ヲ一般募集ト爲ストモ多少其地方ニ於ケル應募力ヲ大ナラシムル
モノアル可キハ當然ノ結果ニシテ唯其特効ヲ奏ス可キハ其地方ノ人民カ經費
成功等ノ困難危處ニ由リ此カ經營ニ躊躇スルニ當リ政府カ契約上此カ起業ヲ
爲ス場合ニ在リ即チ所在ノ人民ハ斯業ノ成功ニ因リテ巨大ノ利益ヲ得可ク若
シ失敗ニ至ルモ其投下ノ資本ハ之ヲ盡スルノ患ナク政府ヨリ之カ償還ヲ受
ク可キニ由リ普通ノ條件ヨリ利子ノ歩合發行ノ價格等ニ於テ多少ノ不利アル
モ進ンテ之カ募集ニ應スルヲ常ト爲スモノナレハナリ

第四款 債還基金又ハ抵當物附發行法

國債ハ其募集ノ當時元利支拂ノ方法等ニ付キ精確ナル計畫ヲ豫算ス可キコト
固ヨリ言ヲ俟タス而シテ往時信用未タ鞏固ナラナル時代ニ在リテハ債權者ニ
對スル元利支拂ノ法トシテ債還基金ノ法ヲ設クルヲ例トシ英國ノ如キハ今日

ニ於テ猶ホ此方法ヲ牢守セリ其設置ノ方法ハ或ハ當初ヨリ募集金ノ幾分ヲ割
キ利倍増殖ノ法ニ依ルアリ或ハ特別ノ租稅ヲ以テ之ニ充ツルアリ或ハ一般收
入ノ一部ヲ割キテ之ニ充ツルアリ英國ノ如キハ當初各國債ニ應シテ各特種ノ
租稅ヲ以テ特別基金ト爲セシモ其煩雜不便ヲ避タル爲メ千七百十五年ヨリ特
別基金ヲ合シテ一基金トシ便宜各種ノ國債ヲ債還スルヨト、爲セリ
抵當物ヲ附スルノ法ハ又往時一般ニ行ハレシ法ナリト雖モ今日ニ於テハ唯財
政ノ薄弱ナル政府ニ貸與スル外國債ニ於テ之ヲ見ルニ過キス我邦ニ在リテモ
維新前諸侯ノ金主ヨリ借財ナストキハ多ク物品稅ヲ抵當ト爲スマ例ト爲シタ
リ方今ニ在リテ信用ノ發達上一般ニ抵當物ヲ附スルコトナキモ事業國債ノ類
ハ其事業ノ收益ニ依リテ之カ元利ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ得可キモノナルヲ
以テ其事業自體力間接ノ擔保タル可キモノナルニ由リ一般ニ他ノ國債ニ比シ
起債力大ナリトス

各藩ノ租稅ハ概モ物品稅ニシテ此物品ノ處分ニ付テハ各藩多少ノ相違ア
レトモ要スルニ其物品ハ商賈ニ賣却スルコトナルカ何レノ藩ト雖モ收入入

ノ大部分ハ江戸邸並ニ參勤交代ノ費用ト公役金賦課ニ費消セラレテ租税
収納前既ニ早ク借金ヲセサル者ナケレハ其收納物ハ之カ償却ニ仕向ルモ
ノ多シ而シテ西國ノ諸侯ハ勿論其他ノ藩ト雖モ其債主ナルモノハ概子大
坂ニ在リテ收納物ハ皆大坂ニ運搬シ其之ヲ處分スルニ付テモ直チニ抵當
物ナリトテ債主ニ引渡スハ藩ノ不面目ナリトシ各藩各自ニ賣却スルカノ
如ク裝フモ實際ハ債主ニ差押ヘラレタルト同一ノ結果ヲ以テ賣捌クナリ

(中略)

當時ニ在リテハ其藩ノ財政好都合ナル時ハ抵當ヲ要セサルモ然ラナルト
キハ皆抵當ナキヘナシ左レト質物ノ如ク物品ヲ送ルニ非ス今回ノ借財ニ
對シテハ何ノ租税ヲ引當トセム或ハ平年大坂ニ輸送スル米ハ何萬石ナル
モ何萬石ニ増加ス可シト片約束ノ如キコトヲ爲ス然ルニ其實當時ニ在リ
ハテハ相互ノ約束ト異ナルコトナク又其引當ト稱スルハ今ノ抵當ト相同シ
キモノナリ云々國家學會雑誌第百三十七號末板博士「封建時代ノ財政」(參
照)

減債基金法ノ不可ナルコトハ國債ノ管理及ヒ償還ノ章ニ於テ之ヲ論述スル所
アル可キヲ以テ此ニハ其大略ヲ述フルニ止ム可シ由來減債基金法ハ無用ニ巨
額ノ資金遊金ト爲スノミナラス事實此法ノ設定ハ債權者ヲシテ必ス此基金ヨ
リ其負債ヲ支拂ハシムル權利ヲ與フルモノニ非ヌシテ政府ハ財政上此基金ヲ
他ニ流用シ得可キモノナレハ單ニ名義上債權者ニ多少ノ安心ヲ與フルニ過キ
サルモノナリトス隨テ政府ノ信用發達セル今日ニ於テ特ニ此等姑息ノ手段ヲ
用フルマテモナク歲入ノ剩餘又ハ當該年度ノ特別收入アル場合其他財政ノ緩
急ニ應シテ之カ償却ヲ爲スヲ以テ足レリト爲スモノナリ彼ノ抵當物ヲ附スル
カ如キモ其抵當物ハ私人小額ノ取引ノ擔保ト爲ル場合ト異ナリ巨額ヲ要スル
モノナルヲ以テ性質上無効ニ陷ル場合多シ秘魯ノグワノ(烏糞土耳其ノアナト
リ)ノ羊ノ如キ此類ナリ

第五款 記名發行法及無記名發行法

國債證書ヲシテ其法價ヲ維持シ之カ利便ヲ大ナラシメンニハ先ツ此カ利用融
通ノ便ヲ開カスンハ非ス即チ單ニ普通ノ指名債權ト異ナリテ賣買取引ニ利用

セシメ商事契約ノ擔保品ト爲サシメ紙幣發行ノ準備タラシムル等總テ金融上ノ利器トシテ此カ移轉ノ便ヲ計ルコトヲ要ス近時無期ノ國債認メラル、ニ至リテハ殊ニ其必要大ヲ加ヘ無記名ノ制ハ廣ク行ハル所ト爲レリ各國ノ法律又之ニ對シ多ク動産ト同一ニ看做シ交換ノ媒介トシテハ紙幣ト殆ト同一ノ機能ヲ有スルニ至レリ然レトモ一方ニハ國債其モノ、移轉ヲ望ムコト無ク單ニ利息ノ收入ヲ以テ足レリト爲ス者ニ對シテハ記名ノ制ハ火災、盜、紛失、毀損等ノ危險ニ對シ一ノ保障ト爲ル可キヲ以テ又無用ナリト謂フ可カラス隨テ所有者ノ請求ニ依リ一定ノ手數料ヲ附シテ記名又ハ無記名ト爲スコト最モ便利ニシテ各國ニ於テ又遍々行ハル、所ナリ

第六款 募集ノ回數及ヒ拂込ノ多少ヲ標準ト爲ス法
募集ノ回數少ケレハ拂込高多ク募集ノ回數多ケレハ拂込高少ナシ而シテ募集ノ回數ノ多少換言スレハ一時ニ國債ヲ募集ス可キカ漸次ニ國債ヲ募集ス可キカハ主觀的ニハ其需要ノ緩急ニ支配セラレ客觀的ニハ供給ノ狀況ニ支配セラル蓋シ一時募集ノ法ハ市場ノ狀況ニ由リ稀ニ漸次募集ヲ爲シ難キ場合又ハ其國

外國人ニ讓渡サル、カ又ハ外國人カ二分ノ一以上ノ持分ニ於テ共有者トナルトキハ該船舶ハ佛國籍ヲ失フ隨テ佛國法カ與フル保護ノ下ニ立テ佛國ノ國旗ヲ掲揚スルコトヲ得ス顧フニ一千七百九十三年九月二十一日ノ法律ハ佛國船舶ノ全部又ハ一部ヲ外國人ニ讓渡スコトヲ禁シタリシカ千八百十八年四月二十一ノ法律第二條ハ其禁ヲ解キテ自由讓渡ヲ爲スコトヲ許シタリ又株式會社一日ノ法律第一回付テハ前掲千八百四十五年ノ法律ハ適用セラル、エノニアラスシテ苟モ株式會社カ佛國ニテ佛國法ニ從テ設立セヨレ且ツ其船舶カ佛國船舶タルニ必要ナル他ノ一切ノ條件ヲ充タシタルトキハ該會社ノ株式ノ二分ノ一ハ外國人カ之ヲ所有スルトモ該船舶ハ佛國船タルニ害ナシ而シテ合名會社ニ付テハ社員ノ全員カ佛國人ナラサルヘカラス
伊國一千八百六十五年六月二十五日發布伊國海商法第四十條ニ依ルニ凡ソ船舶ニシテ伊國ノ國籍ヲ得ルニハ其所有權カ伊國人ニ專屬スルカ又ハ少クトモ五年以上伊國內ニ住所ヲ有スル外國人ニ屬スルコトヲ必要トシ尙ホ伊國内ニ住所若クハ居所ヲ有セサル外國人ト雖モ伊國船舶所有權ノ三分ノ一マテハ之

ヲ有スルコトヲ妨ケサルナリ然ルニ一千八百七十七年五月二十四日發布ノ改正商法第四十條ニテハ伊國船舶所有ヲ得ル外國人ノ範圍ヲ擴張シ伊國內ニ五年以上獨リ住所ノミナラス居所ニテモ之ヲ有スル外國人ナレハ伊國船舶所有者タリ得ルモノトセリ而シテ合名會社ニ付テハ其本店ハ外國ニ在ルモ業務擔當社員ノ一員カ伊國人ナルトキハ該會社所有ノ船舶ハ伊國船舶タルコトヲ得株式會社ニ付テハ外國人株式所有ニ付何等ノ制限ナシ要スルニ伊國ハ船舶ノ所有ニ付他國ニ比シテ最モ内外平等ノ主義ヲ取レリ

塊國一千八百七十九年五月七日ノ法律第六十五號第一章ニ依レハ船舶登記簿ニ登記シ若クハ假免狀ヲ得タル船舶ヲ以テ塊國商船ト定メ其所有權ノ三分ノ二以上塊國人ノ所有ニ屬スルニ非レハ船舶登記簿ニ登記セス而シテ塊國内ニ創立セラレ且タ塊國内ニ在ル漁船會社ハ一個人ト同一視ス又外國ノ港ニ在外國船舶ニシテ其所有權ノ三分ノ二以上塊國人ノ有ニ歸スルトキハ塊國領事ハ船舶假免狀ヲ付與ス

英國一千八百九十四年ノ現行商船法第一條ニ於テ船籍ノ規定ヲ設ケタリ之ニ

依ルニ英國ニ生レタル臣民、英國若クハ其版圖内ノ歸化法ニヨリ又ハ英王ノ特許ニヨリテ歸化人トナリタル者、及ヒ英國若クハ其版圖内ノ法律ニ從ヒテ設立セラレ主タル事務所ヲ英國版圖内ニ有スル法人ニ專屬スルモノ、ヲ以テ英國船舶ナリトス

日本國舊商法ハ第八百二十四條ニ於テ船籍ヲ規定セリ即チ船舶カ一日本人民ノ所有ニ專屬スルトキニ日本ニ主タル營業所ヲ有シ且日本ノ裁判權ニ服從スル會社其他ノ法人ニシテ合名會社ニ在テハ總社員合資會社ニ在テハ少クトモ該規定ハ種々ノ點ニ於テ缺點アリ先ツ官廳又ハ公署ノ管理ニ屬スル船舶ヲ此中ニ包含セシメサルカ故ニ日本船舶ノ全部ヲ悉サハルノ誠アリ又法人ニモ社員ノ半數、株式會社ニ在テハ取締役ノ總員、其他ノ法人ニ在テハ代表者ノ總員カ日本人民ナルモノ、所有ニ專屬スルトキヲ以テ日本船舶ナリトセリ然レトモ該規定ハ種々ノ點ニ於テ缺點アリ先ツ官廳又ハ公署ノ管理ニ屬スル船舶ヲ此中ニ包含セシメサルカ故ニ日本船舶ノ全部ヲ悉サハルノ誠アリ又法人ニ關スル營業所ト云フ文字ハ商事會社ニ付テハ當レリト雖モ公益法人等ニ付テハ其當ヲ得サルカ故ニ此場合ニハ之ヲ事務所ト云フニ若ガス又合資會社ニ付テハ法文ハ社員ノ半數カ日本人民ナレハ足レリトセリト雖モ立法ノ主意ヨリ

考フレハ是レ亦不十分ナリ蓋シ合資會社ニハ無限責任社員ト有限責任社員トアリ又舊商法ノ合資會社ハ真成ナル無限責任社員無クトモ之ヲ成立スルコトヲ得唯業務擔當社員カ自己ノ任務中ニ爲シタル行爲ノミニ付テ無限責任ヲ負ヘハ足レリトセリ故ニ合資會社ニ在リテハ唯社員ノ半數カ日本人民タルノミニテハ不十分ニシテ必スヤ無限責任ノ全員若クハ業務擔當社員ノ全員カ日本人民ナラサルヘカラサルナリ此ノ如ク種々ノ缺點アリタルカ故ニ新法典ハ之ヲ修正スルト同時ニ船舶ノ規定ヲ商法中ニ之ヲ置クハ其當ヲ得サルカ故ニ之ヲ船舶法中ニ移シタリ即チ船舶法第一條ニ曰ク左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、舊商法ノ規定ニ從ヒヲ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員、株式會社ニ在リ

テハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
四日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
ト以テ我國法モ亦所有者ノ國籍如何ニヨリテ船舶ヲ定ムルノ主義ナルコトヲ知ルヘシ而シテ本條ハ實ニ能ク舊商法ノ缺點ヲ補ヒ得タルモノト云フヘシ

第四節 船舶ノ登記

新商第五百四十條第一項ニ曰ク

船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス
ト之ヲ一見スレハ船舶所有者ハ船舶ノ登記ヲ爲スト共ニ同一官廳ヨリ船舶國籍證書ノ交付ヲ受クルカ如キ觀アリト雖モ船舶法并ニ船舶登記規則等ヲ繙ケハ船舶登記ノ事務ハ司法省ノ管轄ニ屬スル區裁判所又ハ其出張所ニ於テ之ヲ行フモノニシテ(船舶登記規則第二條)船舶所有者ハ其登記ヲ受ケタル後遞信省ノ管轄ニ屬スル管海官廳ニ船舶ノ登録ヲ申請セサルヘカラス而シテ船舶國籍

證書ハ其登録ヲ終リタル後管海官廳ヨリ始メテ之ヲ交付スルモノタルコトヲ
知ルヘキナリ(船舶法第五條此ノ如ク船舶所有者ハ登記ト登録トノ二者ヲ受ケ
サルヘカラス抑モ船舶登記ノ目的ハ船舶ノ私法的権利關係ヲ公示スルニ在リ
其目的毫モ不動產登記ト異ナルコトナシ唯其手續ヲ異ニスル必要アルカ爲メ
ニ一ハ不動產登記法ニ從ヒ一ハ船舶登記規則ニ從ハシムルノミ(註法文ニハ特
別法ノ定ムル所ニ從ヒト云ヒ法律ヲ以テ制定スルコトヲ必要トシタルニ勅令
フ以テ船舶登記規則ヲ公布シタル所以ハ船舶法第三十四條ヲ以テ船舶ノ登記
ニ關スル規程ヲ勅令ニ委任シタルニ依ルモノナリ)然ルニ船舶ノ登記トハ船舶
原籍ニ記入シ以テ船舶ヲ我國籍ニ編入スルコトヲ云フナリ猶ホ人フ戸籍ニ編
入スルカ如キナリ此ノ如ク船舶ノ登記ハ私法的ノ關係ニ屬シ登録ハ公法的ノ
關係ニ屬シ二者其目的ヲ異ニスルカ故ニ一ハ行政官衙タル管海官廳ヲシテ其
事務ヲ司ラシメ一ハ各個人ノ權利證明ノ職ニ任スル司法官廳ヲシテ事務ヲ掌
ラシムルハ理論上正シカラサルニアラス仍テ舊商法ニ於テモ亦船舶登記ノ事
務ハ之ヲ裁判所ヲンテ司ラジムルノ主意ニシテ船舶所有者ハ管海官廳ヨリ船

船舶證書ヲ受クル外ニ私法的權義ノ證明ニ充ツル爲ミニ裁判所ヨリ船舶登記
證書ヲ請受クヘキモト爲シタリ舊商法第八二五條及第八二七條然リト雖モ
固ト船舶國籍證書ト船舶登記證書トノ二者ヲ必要トスルモノニ非ス蓋シ前述
シタル如ク船舶ノ所在ト船舶所有者ノ何國人ナルキニヨリテ定ルカ故ニ船舶
所有權ノ登記ハ同時ニ船舶ノ證明トナリ得キナリ殊ニ其內容ニ於テモニ證
書ハ殆ント同一ナルカ故ニーフ以テ他ノ目的ニモ亦使用スルコトヲ得ルナリ
故ニ新商法ニ於テハ二證書ヲ必要トセス獨リ船舶國籍證書ノミヲ以テ行政上
ノ目的ニモ亦私法上ノ目的ニモ共ニ充用シ得ヘキモノト爲シタリ例へハ船舶
所有權ノ讓渡アリタル場合ニ之ヲ以テ第三者ニ對抗セントセハ登記ヲ爲スノ
外ニ船舶國籍證書ニ其旨ヲ記載スルコトヲ必要トシタルカ如キ是ナリ此ノ如
ク新商法ニ於テハ證書ニ必要トセサルノミナラス前掲シタル第五四〇
條第一項ノ立案ノ主意ヨリ考フレハ一步進シテ船舶登記ノ事務ト船舶登録ノ
事務トハ亦同一官廳タル管海官廳ヲシテ之ヲ管掌セシムル主意ナリシコト推
知スルニ餘リアツ但政務ノ分掌ノ事ハ官制并ニ豫算ノ決スル所ニヨリテ定ル

カ故ニ私法的法規ニ屬スル商法ノ猥リニ干渉スヘキ所ニアラス仍テ之ヲ特別法ノ定ムル所ニ一任シタリ然ルニ特別法タル船舶法同施行細則并ニ船舶登記規則ニ依レハ船舶登記ノ事務ト登録ノ事務トハ各別派ノ官廳ニ於テ之ヲ分掌スルコトトナレリ仍テ船舶所有者ハ先ツ裁判所ニ到テ船舶ノ登記ヲ受ケ然シテ後管海官廳ニ到テ登録ヲ受ケ始メテ船舶國籍證書ヲ請受クルノ運ヒニ至ルコトヲ得ルモノナリ

新商法ノ解釋ニ付テハ裨益少キモ今試ニ船舶ノ登記ト登録ヲ同一官廳ニテ取扱フ場合ニ於ケル利益ヲ列舉スレハ左ノ如シ
 一、船舶所有者ノ何人タルカハ單ニ私法上ニ於テ必要ナルノミナラス公法上ニ於テモ常ニ之ヲ明カニスル必要アリ例へ船舶籍ノ如キハ所有者ノ日本人タルト否トニ依リテ定ル故ニ裁判所ノ登記ヲ私法上ノ關係ヲ明カニスルコトヲ得ルモ別ニ公法上ノ關係ヲ明カニスル爲メニ管海官廳ニ於テ登録ヲ爲サルヘカラス故ニ船舶所有者カ始メテ其所有權ヲ取得シタル時ハ勿論其後所有權ノ移轉アル毎ニ必ス兩所ニ届出ヲサルコトヲ得ス然ルニ若シ管海官廳ニ

於テ直チニ登記ノ事務ヲ取扱フモノナルトキハ當事者ノ爲メニ便益アルコト辨フ待タス唯抵當權ヲ設定スル場合ニハ單ニ登記所ニ於テ之ヲ登記スルヲ以テ足レリトスト雖モ現今ノ實況ニ於テハ所有權ノ取得又ハ移轉ノ場合賣カニ抵當權設定ノ場合ヨリモ多キカ故ニ當事者ノ便否ヨリ云ヘハ船舶登記ノ事務ヲ管海官廳ニ於テ取扱フヲ以テ得策ナリトス
 二、登記ト登録トノ二者相違アルトキハ種々ナル不都合アルコトハ固ヨリ言ヲ埃タス然ルニ之ヲ同一官廳ニ於テ取扱フトキハ二者ノ相違若クハ誤謬ヲ生スルニト尠シ

三、船舶登記事項ハ船舶登記規則第十六條ニ記載スルカ如ク船舶ノ種類、材料噸數等ニ關シ船舶ニ關スル専門的智識アル者ニアラサレハ了解シ難キモ多シ故ニ登録ノ事務ト共ニ管轄官廳ニ於テ之ヲ取扱フモノトセハ錯誤等ヲ生スルノ虞渺シ
 四、私權ノ得喪、變更ニ關スル事項ト雖モ必スシモ之ヲ司法官廳ニ於テ取扱ハサルヘカラサルノ理ナシ夫ノ版權特許、意匠、商標、業權ノ如キハ皆行政官廳ニ於

テ之カ登録ヲ行フニ依リテ知ルヘシ。五、外國ノ例ヲ見ルニ船舶登記ノ事務ハ之ヲ管海官廳ニ於テ取扱フヲ以テ其例多シトス就中航海業ニ發達セル諸國ニ於テ然リトス例ヘハ英、米、佛、伊、塊、ハンブルグ、ブレーメン、メックレンブルグ、オルデンブルグ等是ナリ而マテ司法官廳ニ於テ之ヲ取扱フモノハ白、西、葡、バベイク等ノ數國ニ過キス而カモ普、ル、ユベック等ニ於テハ船舶國籍證書モ亦登記裁判所ニ於テ之ヲ交付スルカ故ニ管海官廳ニ到テ之カ交付ヲ受クルカ如キ二重ノ手數ヲ勞スルコトナシ又白國ニ於テハ國內ノ船舶登記ハ總テ皆アンダーリンノ登記所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトシ西國ニ於テハ沿海其他航海業ニ特別ノ關係アル州ノ首府ニ於テノミ船舶ノ登記ヲ爲スヘキモノトシ葡國ニ於テモ特ニ政府ニ於テ指定シタル土地ノ商事裁判所ニ於テノミ之ヲ爲サシメ又ル、ユベックニ於テモ地方裁判所ノ商事局ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトセリ故ニ此等ノ諸國ニ於テハ沿海地方ノ各區裁判所ニ於テ船舶ノ登記ヲ爲サシムルコトヲ必要トセサルナリ。以上述フルカ如ク船舶ノ登記下登録トヲ同一官廳ニ於テ取扱フハ其便益極メ

テ多ク外國ノ立法例モ亦多クハ皆然ル所ナルニモ係ハラス我船舶法施行細則并ニ船舶登記規則ニ於テ其方法ヲ採ラサリシハ誠ニ遺憾ト云フヘク當事者ノ不便察スヘキナリ夫レ登記ハ之ニ因テ以テ權利ノ設定、消滅及ヒ變更ヲ生スルモノニアラス唯之ニ對スル公示方法ニ過キサルカ故ニ之ヲ爲スト否トハ當事者ノ任意ニ屬スル場合多シト雖モ船舶ノ登記ニ付テハ之ヲ航行ノ用ニ供スル前ニ當リ必ス之ヲ爲サ・ルヘカラス何トナレハ船舶法第六條ニ依ルニ同施行細則第四條ニ列舉シタル場合等ヲ除クノ外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非レハ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ス然ルニ國籍證書ヲ請受クルニハ必ス船舶ノ登錄ヲ爲スコトヲ要シ登錄ヲ申請スルニハ先ツ登記ヲ受ケテ而シテ後登錄申請書ニ登記ノ謄本ヲ添附スルコトヲ必要トスレハナリ船舶法第五條并ニ同施行細則第一七條此ノ如ク航行前ニ在テ必ス登記セサルヘカラス故ニ航行ノ用ニ供シ得ルコトハ登記ノ間接ノ効果ト云フモ可ナリ換言スレハ登記ヲ爲サ・ル制裁トシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得サルナリ然リト雖モ

船舶ノ登記ハ如何ナル小船ト雖モ皆之ヲ行フコトヲ必要トスルニアラス西洋形船總噸數二十噸未滿日本船積石數二百石未滿ノモノハ登記ヲ受ケルコトヲ要セヌ新商第五四〇條第二項蓋シ此等ノ小船ハ遠洋ニ航行スヘキモノニアラス又登記ニ依リテ私權ノ證明ヲ爲スホトノ必要アルモノニアラサレハナリ西洋形船ノ積量一噸トハ百立方尺ヲ云々日本形船ノ積量一石トハ十立方尺ヲ云フ故ニ西洋形船ノ二十噸ハ日本形船ノ二百石ニ恰當スルモノナリ又總噸數トハ登簿噸數ニ對スル語ニシテ西洋形船ノ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セタルモノヲ云ヒ又甲板三層以上ノ船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セタルモノヲ云フ量噸甲板トハ西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ云ヒ甲板二層ノ者ハ上層ノ甲板ヲ稱シ甲板三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ニアルモノヲ云フナリ而シテ登簿噸數トハ流船ニ付テハ總噸數ヨリ乗組人常用室及ヒ機器室ノ噸數ヲ除キタルモノヲ云ヒ帆船ニ付テハ總噸數ヨリ乗組人常用室ノ噸數ヲ除キタルモノヲ云フ(明治十七年四月二十四日第

十號布告船舶積量測度規則) 本規則は日本政府の内閣令として制定されたもので、船舶の登記手続、船舶所有権の譲渡、船舶登記証書の発給等に関する規定である。規則は主に船舶の積量測度、船舶登記手續、船舶登記証書の発給等に関する規定である。
船舶登記ノ管轄裁判所、登記簿、船舶所有権、抵當権、貸借権ニ關スル登記ノ手續就中登記事項、登記ノ抹消等ニ付テハ船舶登記規則ニ於テ詳細ニ之ヲ規定シ又船舶登録ノ手續、船舶國籍證書記載ノ事項等ニ付テハ船舶法施行細則ニ於テ詳細ニ之ヲ規定シタルカ故ニ就テ見ルヘシ今更メテ茲ニ之ヲ抄出セス
從來ハ西洋形船ニ在リテハ登簿船免狀日本形船ニ在リテハ船鑑札ナルモノヲ受有シ以テ前述シタル船舶國籍證書ノ用ヲ便シツ、アリ然レトモ其記載事項ハ極メテ不完全ノモノナルカ故ニ船舶法ノ施行以後ハ該法ニ從テ船舶國籍證書ヲ受有スヘキ資格アル船舶ニ在リテハ同法施行細則ニ從テ更ニ登録ヲナシ且船舶國籍證書ヲ諦受クルコトヲ要スルナリ船舶法第三十七條)

第五節 船舶ノ譲渡

船舶ノ所有權取得ノ方法ニハ種々アリ之ヲ大別シテ原始的取得ト移轉的取得トノ二種トナスヘシ而シテ原始的取得ノ中ニハ船舶ノ製造、捕獲アリ移轉的取得ノ中ニハ譲渡、相続、結婚時効等アリ然レトモ民法ノ一般規定ノ適用ヲ以テ足

レリトスル事項ニ付テハ舊商法ニ於テハ船舶所有權ノ取得及日移轉ナル一節
ヲ設ケテ特ニ詳細ナル規定ヲナセリト雖モ新商法ハ之ヲ刪除シタルカ故ニ民
法ノ講義ニ讓テ今茲ニ之ヲ述ヘス又捕獲ノ如キハ國際公法ニ於テ研究スヘキ
事項ニ屬ス故ニ茲ニハ新商法ニ於テ特別規定ヲ設ケタル船舶所有權取得ノ一
方法ナル船舶ノ讓渡ノミニ付テ之ヲ述フヘシ
新商法第五百四十一條ニ曰ク
船舶所有權ノ讓渡ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレ
ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
ト舊商法第八百三十五條ニテハ賣買其他ノ法律行爲ニ依リテ船舶所有權ヲ取
得スル契約ハ必ス特ニ作レル契約證書ヲ以テ之ヲ取結フヘキモノトシ證書ノ
作成無クンハ契約ハ成立セサルナリ然レトモ新商法ハ商事契約ノ成立要件ト
シラ形式ヲ要セサルコトヲ以テ通則トセルカ故ニ舊商法ノ如ク證書作成ヲ契
約成立ノ要件トスルコトハ之ヲ廢止セリ故ニ船舶ノ讓渡ニ付テモ當事者ノ意
思表示ノミニテ所有權ハ直チニ移轉スルコトヲ得ルナリ然レトモ第三者ニ對
抗スルニミテ所有權ハ直チニ移轉スルコトヲ得ルナリ然レトモ第三者ニ對

スル公示方法トシテハ民法ニ於テ不動產ニ付テハ第一百七十七條ヲ設ケ不動產
物權ノ得喪及ヒ變更ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコ
トヲ得サルモノトシ動產ニ付テハ第一百七十八條ヲ設ケテ動產ニ關スル物權ノ
讓渡ハ其動產ノ引渡アルニ非レハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノ
トシタルト均シタ船舶ノ讓渡ニ付テモ亦或手段ヲ採ラサルヘカラス然ルニ
船舶ハ一般ノ動產ト異リ其價モ尊ク又其數モ少キカ爲メニ既ニ登記ノ設アリ
故ニ民法第百七十八條ニ對スル特別規定ヲ設ケ該讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗セ
ントスルニハ登配ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要スドシタ
ルナリ
尙ホ第五百四十一條ニ付テ注意スヘキコトハ同條ニハ廣ク船舶ノ所有權ト云
フト云フト雖モ該船舶ノ中ニハ前條第二項ニ依リテ除外シタル總噸數二十噸
未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ハ包含セサルモノト知ルヘシ何トナレハ此
等ノ小船ニ對シテハ登記ノ制ナク又國籍證書ヲ下附スヘキモノニアラサレバ
ナリ隨テ此等ノ小船ノ讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ民法第百七十八條ニ

依リ船舶ノ引渡ヲ爲スコトヲ要スルナリ

新商法ハ又航海中ニ在ル船舶ノ讓渡ニ付特別規定ヲ設ケタリ即チ第五百四十

二條ニ曰ク
航行中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス、ト、蓋シ航海中ニ在ル船舶ヲ讓渡シタルトキハ既ニ其航海ニ因リテ損益ヲ生スヘシ而シテ其損益ハ何人ニ歸スヘキモノナリヤノ問題ヲ生ス恰モ民法第八十九條ニテ果實ノ取得者ヲ定ムル必要アリタルト同一ナリ此場合ニ於テ民法八十九條第二項ニ於テ法定果實ヲ日割ヲ以テ取得スルモノトシタルカ如ク船舶讓渡ノ日ヲ以テ限界トシ其前後ニ依リテ損益ノ歸屬者ヲ定ムヘキカ外國ノ立法例中往々斯ノ如キ制ヲ採ルモノナキニ非スト雖モ航海中ノ損益ハ前後不同ニシテ時ノ前後ヲ以テ限リニシテ分割スヘカラス例ヘハ航海ノ前半ニハ暴風雨多ク航海費用ヲ多ク使用シタルニ後半ハ平穩ニシテ費用極メテ少額ナリシカ如キコトハ常ニ之レアル所ナリ故ニ若シ偶然ノ期日ニ依リテ其前後ヲ分チ

六 保険期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期

七 保険契約者ノ氏名又ハ商號

八 保険契約ノ年月日

九 保険證券ノ作成及ヒ其作成ノ年月日

本條ハ損害保険一般ニ付テ規定スル所ノモノニシテ(一)保険ノ目的トハ保險契約ニ依テ保護セラルヘキ目的即チ火災保險契約ニ於テハ保險ニ付セラレタル家屋家畜保險ニ於テハ被保險牛馬債權保險ニ於テハ貸借契約ノ包容等ニシテ之ヲ表明スル所ハ事項ヲ記載スルノ謂ナリ然レトモ保險ノ目的ナル文字カ此意即チ舊商法ニ於ケル被保險物ノ十分精密ナル記載ニ該當スト云フコトハ頗ル六ヶ敷用語ニシテ予ハ商法修正案參考書ヲ讀ミテ始メテ之ヲ解スルヲ得タル位ナリ

(二)保險者ノ負擔シタル危險トハ保險ノ種類ヲ示スモノニシテ火災ノ危險トカ海上ノ危險トカ或ハ其内訳中保險者カ填補ノ責ニ任スル所ノ危險ノ種類ヲ記載セシムルノ意ナリ

(三) 保険價額トハ所謂保険ノ目的ノ價格ニシテ之ヲ限度トシテ填補ノ行ハル、所ノ價額ナリ而シテ此價額ハ世間ノ相場ニ由リテ自ラ定マルヘキモノナレトセ後ノ紛議ヲ避クル爲メ契約ノ際ニ當事者カ確定シ置クヲ便利ナリトス故ニ之ヲ定メタルトキハ又之ヲ記載セシムルナリ

(四) 保険金額トハ保険者カ事故ノ發生ニ當リテ供出スヘク約スル所ノ金額ニシテ之ヲ定ムルコトハ一般普通ノ習慣ナリ但生命保険、病傷保険等ニ於テハ總て豫定ノ保険金全額ヲ支拂フモノナルカ故ニ必ス保険金額ヲ定ムル必要アリト雖モ損害保険ニ於テハ所謂實損額ヲ計算シテ賠償ヲ行フモノナルガ故ニ必シモ保険金額ヲ定メ置クヲ要セアルノミナラス實際定ムルコトヲ得サル場合頗ル多シ故ニ損害保険證券ニ保険金額ヲ必ス記載セシムルコトハ少シク實際ニ疎キ仕業ト謂ハサルヘカラサルナリ例ヘハ火災保険ニ於テ倉庫中ノ貨物ヲ保険スルノ契約ヲ締結スルニ方リ貨物ハ常ニ新陳交付シテ保険金額モ亦常ニ變動スルモノナルカ故ニ之ヲ一定シ置クコトヲ得ス故ニ保険金額ハ之ヲ定メシテ契約ヲ締結シ之ニ對スル保険證券ヲ交付シ置キ保険金額

ハ他ノ方法ニ依リ何時ニテモ之ヲ知ルコトヲ得スルコト多シ又海上保険ニ於テモ船舶カ發港スル毎ニ検査シテ一々保険契約ヲ結フノ煩ヲ避クル爲メ商業信用ノ發達シタル所ニ於テバ常ニ其船カ積ミ出ス丈ノ貨物ニ付テ保険スト云フカ如キ契約ヲ結フコト多ク又外國ヨリ自國ヘ歸帆セントスル船舶ノ貨物ヲ保険セントスル場合ノ如キニハ保険金額ヲ定ムルコトヲ得サルナリ總テ此ノ如キ場合ニハ自由證券^{フリーパスポート}ヲ以テ契約スルモノニシテ又不定額證券ト稱シ之ニ對シテ定額證券アリ

(五) 保険料及ヒ其支拂ノ方法モ亦前項ト同シク必シモ確定セラルヘキモノニ非ス例ヘハ最後ノ例ニ於ケルカ如キ保険ノ目的ノ價額スラ分明ナラサル場合ニ保険料ノ額ヲ確定スルヲ得ヘケンヤ、又保険料ハ第三節保険料ノ項中ニ述ヘタル如ク默定セラル、場合アリテ之ヲ明定セサレハ保険證券ヲ發行スル能ハストハ甚夕窮屈極マレル規定ト謂ハサルヘカラサルナリ支拂ノ方法トハ前拂後拂、一時拂分割拂等ノコトヲ指シ之ヲ記載セシムルコトハ至當ナルヘシ

(七) 保険期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期ナル文句モ亦少シク説明ヲ要ス

ヘキ所ノモノナリ保険期間トハ其間保険者カ損害填補ノ責ニ任スル所ノ時期ニシテ備ハ保険契約ノ要素トシテ當事者カ必ス之ヲ定ムヘキモノナレドモ法定ノ期間性質上當然ノ期間等ノアルコト疊ニ述ヘタル如クナレハ當事者カ定メサル場合モ亦想像セラル、ナリ是ヲ以テ第六號ノ規定ヲ設ケタルナルヘシ(七八九)ハ別ニ説明ヲ要セシミテ明ナリ但(九)ニ於テ保険證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日ヲ態々記載セシムルコトハ少シク御叮嚀ニ失セリトノ評ヲ免ルヘカラサルナリ

以上九項ノ外尙ホ保険種類ノ異ナルニ因テ特種ナル事項ノ記載ヲ必要トシ即チ火災保険ニ付テハ第四百二十二條、運送保険ニ付テハ第四百二十五條、生命保険ニ付テハ第四百三十條及ヒ海上保険ニ付テハ第六百六十一條ノ規定アリ而シテ其中不思議ニ感セラル、ハ火災保険證券ニ特ニ掲ケヨト命ヌル所ノ二項ニシテ即チ

一 保険ニ付シタル建物ノ所在及ヒ用方

二 動産ヲ保険ニ付シタルトキハ之ヲ納ル、建物ノ所在構造及ヒ用方

ナリ是等ハ先ニ掲ケタル保険ノ目的中ニ包含セラルヘキモノニシテ是等ヲ掲ケサレハ保険ノ目的ノ記載ヲ遂クル能ハサルナリ

又曖昧ニシテ疑義ヲ生セシムル處アルハ生命保険證券ニ特ニ掲クヘキ

保険金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名及ヒ其者ト被保險者

トノ親族關係

ニシテ我商法ハ生命保険金ヲ受取ルヘキ者ヲ定メサル場合ヲ想像スルカヲ疑

ハシメ而シテ其場合ニハ何人カ受取人ナルカ等ノ疑問ヲ惹起スノ種タリ

又海上保険證券ニ關スル特別規定即チ第六百六十一條ノ第二號ニ

積荷ヲ保険ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保険ニ

付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

トアレトモ之モ亦契約ノ當時未タ不分明ニシテ保険證券ニ記載スルコトヲ得

サル場合アリ即チ海上保険ニ於テハ無^フ船名證券ト有^フ船名證券アリ前者ハ保険

ニ付セラレタル積荷ヲ載セタル船舶ノ名稱カ證券面ニ記載セラレナルモノニシテ遠隔ナル土地ヨリ齋ラナルヘキ貨物ニシテ之ヲ搭載スヘキ船名ノ未タ詳

ナラナル場合ニ主トシテ用ヒヌル、所ノモノナリ船舶ノ名稱スラ分明ナラズ
何ソ國籍種類ヲ詳知スルヲ得ヘケンヤ是レ亦卓上論ノ結果ナリ
保険證券ハ此ノ如ク詳細ニ規定セラルト雖モ之カ別ニ契約締結ノ要件タラサ
ルコトハ曩ニ述ヘタル如シ之ハ我邦ニ限ラス一般ノ法律上然ルカ如シト雖モ
英國ノ「ヴァクトリア印紙稅法」中ニハ海上保険契約ハ保険證券ヲ以テセサレハ締
結スルヲ許サストノ規定アリ然レトモ是レ寧ロ保険法理上ノ考察ヨリセルニ
アラスシテ海上保険證券ニ貼付スヘキ印紙ヲ規定シ之ヨリ少カラサル租稅
ヲ得ンカ爲メノ規定ナルカ如シ故ニ今日ハ有名無實ニシテ契約ノ成立ノ爲メ
ニハ別ニ之ヲ要セナルナリ

序ニ保険證券ノ印紙稅ヲ言ハニ英國印紙稅法ノ如ク海上保険證券ニ保険金
額ニ準シテ印紙稅ヲ徵收スルカ如キ苛酷ナル法律ヘ他ノ類例ヲ見サルカ如シ
或ハ保険證券ヲ目シテ金高記載アル證券トスル者アリト雖モ該金高タル所謂
架空ノ金額ニシテ其記載セラレタル金額カ必ス若クハ全額創設移轉セラルヘ
キモノニ非ナルカ故ニ我印稅ノ規定ハ特ニ保険證券一枚ニ對シ貳錢トセリ是

レ頗ル適當ノ規定ナリトス

第六節 保険契約ノ効力

保険契約ノ効力トハ契約ノ成立ニ由リテ當事者間ニ権利及ヒ義務ヲ發生セシ

ムルコトニシテ茲ニ彼等カ如何ナル権利ト義務ヲ有スルヤヲ述ヘントス

第一 保険者ノ権利義務

保険者ノ義務ハ頗ル單純ニシテ約定シタル事故ノ發生ニ當リテ保険金ヲ支拂
フヘキコトニ在リ而シテ其権利ハ相手方ヨリ保険料ヲ取得スルノ外尙ホ多ク
・権利ヲ有セリ而シテ其権利ハ即チ保険契約者ノ義務ナルカ故ニ之ヲ次項ノ
説明ニ譲ル

第二 保険契約者時ニ被保險者又ハ保険受取人ノ権利義務

保険契約者ノ権利ハ事故ノ發生ニ當リテ保険者ヨリ損害ノ填補ヲ受クルニ在
リ而シテ此保険契約者ノ権利ハ時ニ被保險者又ハ保険金受取人ニ移ルコトア
リ即チ保険契約者カ保険契約ニ對スル権利ハ事故カ未タ發生セサル間ニ於テ
ノミ存在スルモノニシテ例へハ契約ヲ解除スルノ權拂戻金ヲ請求スルノ權等

ニシテ事故發生後ノ利益ハ總テ保険金受取人ニ歸スルモノナリ而シテ保険契約者ノ権利カ被保險者ニ移ル場合ハ前者カ當然積立金ヲ請求スル権利ヲ有シナカラ之カ請求ヲ爲スニ先テヲ死亡シタル場合ニハ其請求權カ契約者ノ相續人ニ移ラスシテ被保險者ニ移ルコト、爲レリ這ハ我商法第四百二十八條ノ解釋上ヨリ來ルモノナレトモ立法者カ果シテ深ク之ヲ研究シテ定メタルヤ否ヤハ疑ハシキナリ

次ニ保険契約者ノ義務ヲ掲ケントス

甲 陳示ノ義務

陳示ノ義務トハ保険契約ノ申込ヲ爲ス者カ危險ノ性質、包容、被保險利益ノ證明等ニ於テ誠實且完全ナル陳述ヲ爲スノ義務ニシテ保険契約者ノ義務ト言ハシヨリハ契約候補者ノ義務ト稱スル方一見適當ナルカ如シト雖モ而モ保險契約者ハ之ニ依テ契約成立ノ後常ニ其羈束ヲ受ケタマアリ之カ虛偽又ハ錯誤ナルコトノ發見セラルトキハ契約ヲ無効ニ歸セシメサルヘカラツルカ故ニ保険契約者ノ第一着ニ最モ注意スヘキ所タリ

員ハ相互間ノ人の信用ヲ以テ結合シタルモノナリ故ニ此持分ノ讓渡ヲ各社員ノ任意ニ放任スルニトヲ得ス必ス他社員ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルナリ若シ他社員ノ同意ヲ得スシテ之ヲ讓渡シタルトキハ讓渡ハ當事者間ニ於テハ有効ナリト雖モ會社ハ其讓渡ヲ否認スルコトヲ得ルナリ民法第六百七十六條ニ於テハ組合員カ組合財產ニ對シテ有スル持分ノ處分ニ關シテ規定シテ曰ク組合員カ組合財產ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得スト即チ組合員ノ持分ノ處分ハ組合及組合ト取引シタル第三者ニ對シテハ對抗スルコトヲ得サルナリ是レ組合ハ單ニ契約關係ニ過キシテ假リニ法律カ便宜上多少組合財產ノ獨立ヲ認めルトスルモ其権利義務ハ凡テ組合員共同ノ権利義務ナルヲ以テ其持分ノ讓渡即チ其権利義務ノ包括承繼ヲ許サ、ルニ非ス(即チ當事者間ニハ有効ナリ)ト雖モ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引シタル第三者ニ對シテ對抗スルコトヲ許サルナリ然レトモ会員會社ニ在リテハ會社ノ權利義務ハ理論上社員ノ權利義務ニ非ス社員ノ持分ハ社員カ會社ニ對シテ有スル權利ノ總括ナリ故ニ他ノ社

員ノ承諾アルニ於テハ其譲渡アシテ完全ニ効力ヲ生セシムルナリ但タ會社ト取引シタル第三者ハ社員ノ信用ニ重ヲ措クコトアルヘキヲ以テ持分ヲ譲渡シタル社員モ譲渡後一定時間(二年)ハ譲渡前ニ生シタル會社債務ニ對シテ責任ヲ負フコトヲ規定シ(第七三條第二項)以テ第三者ヲ保護シタルナリ
社員ノ義務ニ關シテ商法カ組合員ノ義務ニ關スル規定ヲ準用スヘカラストシテ特ニ規定シタルハ第五十五條出資義務ニ關シ第六十條競業禁止ニ付テノ二個條ナリ

第五十五條 社員カ債権ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者カ辨済期ニ辨済ヲ爲サ、シテトキハ社員ハ其辨済ノ責ニ任ス此場合ニ於テハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス
組合員モ亦債権ヲ以テ出資ト爲スコト無論ナリト雖モ組合規定中商法第五十五條ニ該當スル規定ナレ然ラハ組合ニ於テハ此場合ニ如何ニスルヤ民法第五百六十九條ニ依レハ債権ノ賣主カ債務者ノ賣力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル賣力ヲ擔保シタルモノト推定シ辨済期ニ至ラサル債権

ノ賣主カ債務者ノ將來ノ賣力ヲ擔保シタルトキハ辨済ノ期日ニ於ケル賣力ヲ擔保シタルモノト推定セラル此規定ハ同第五百五十九條ニ依リ他ノ有償契約ニモ準用セラル、ナリ故ニ組合員カ債権ヲ以テ出資ト爲シタル場合ニモ亦準用セラル、ナリ然レトモ合名會社々員カ債権ヲ以テ出資ト爲シタル場合ニハ此規定ヲ準用スルハ或ハ穩當ナラス蓋シ商業者間ニ在リテハ特ニ信用ヲ重ンヌルモノナルヲ以テ債権ヲ以テ出資ト爲シタルト金錢ヲ以テ出資ト爲シタルトハ之ヲ同様ニ看做シテ若シ債務者カ辨済ヲ爲サ、シテトキハ債権ヲ以テ出資ト爲シタル社員ハ其辨済ノ責ニ任スト規定セルナリ
社員ノ義務ニ關スル規定ノ第二ハ競業禁止ノ規定第六〇條ナリ又主人ノ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス
第六十條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他社員カ前項ノ規定ニ反シテ自己ヲ爲メニ商行為ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半數ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコ

トヲ得

前項ニ定メタル權利ハ他ノ社員ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

本條第一項ノ規定ハ第百七十五條(株式會社)ノ取締役ニ關スル規定第一項ト同シク第三十八條(代理商ニ關スル規定)第一項ノ規定ト同趣意ニシテ第三十二條

第一項支配人ニ關スル規定トハ異ナリ第三十二條ハ支配人フシテ主人ノ爲メニ全力ヲ盡サシムル精神ナルニ反シテ代理商名會社々員取締役等ニ在リテハ其本人又ハ會社ノ爲メニ利害ノ衝突ヲ來スヘキ行爲ヲ爲サシメサル趣旨ヲ以テ規定セルモノナリ

商法カ合名會社ノ内部ノ關係ニ關シテ特ニ規定セルモノハ上述ノ數點ニ過キス此他ハ皆民法ノ組合員間ノ規定ヲ準用スルナリ其規定ハ此ニ一々述へス諸君ノ自ラ對照シテ研究セラレンコトヲ望ム

第三節 會社ノ外部ノ關係
會社ノ外部ノ關係トハ會社ト會社ノ社員以外ノ人トノ關係ヲ指示スルモノニ

シテ普通之ヲ社員ト第三者トノ關係ト稱ス我舊商法ノ如キ是ナリ社員ト第三者トノ關係ト云フ所以ノモノハ合名會社ニ於テハ社員ノ責任無限ナルヲ以テ第三者ニ對スル會社ノ權利義務ハ恰モ社員ノ權利義務ナルカ如キ觀アルヲ以テナリ然レトモ既ニ會社ニ付キ法人主義ヲ採リ會社カ獨立ノ權利義務ノ主體タル以上ハ直接ニ法律關係ヲ生スルハ會社其物ニシテ社員カ第一次ニ第三者ト法律關係ヲ惹起スコトナシト
會社ノ外部ノ關係ニ付キ説明ヲ要ス(キモノハ第一、會社ノ代表權第二、會社ノ債權者是ナリ)

第一 會社ノ代表權
前節ニ於テ會社ノ業務ノ執行權ヲ説明シタリ而シテ業務執行權ト會社代表權トハ全般觀察ノ點ヲ異ニス業務執行權ノ問題ハ會社内部ノ關係ニシテ會社代表權ノ問題ハ會社外部ノ關係ナリ詳言スレハ業務執行權ノ問題ハ會社ノ内部ニ於テ何人カ會社ノ業務ヲ執行シ得ル權利ヲ有スルヤト云フニ在リテ會社代表權ノ問題ハ他人ニ對シ何人カ會社ノ名ニ於テ法律行為ヲ爲ス權限ヲ有スル

キト云フニ在リ故ニ實際ニ於テハ業務執行權ト會社代表權トハ同一ノ人之ヲ有スルコト多シ即チ舊商法ニ於テハ業務擔當社員之ヲ兼有セリト雖モ理論上ニ於テハ明カニ兩者ヲ區別スルコトヲ得ルナリ

合名會社ニ於テハ何人カ代表權ヲ有スルヤ商法第六十一條ハ之ヲ規定シテ曰
ク

定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メサルトキハ各社員會社ヲ代表ス

ト本條ニ依レハ合名會社ニ於テ代表權ヲ有スルモノハ左ノ如シ
(一)各社員、合名會社ハ各社員ノ信用ヲ基礎トス是レ人の信用團體ノ名アル所以ナリ其社員ハ何レモ無限責任ナルヲ以テ互ニ其人ヲ信用セサルヘカラス隨テ苟モ合名會社ヲ設立シタル以上ハ其社員ハ各自會社ヲ代表スル權ヲ有スルヲ以テ原則トスヘキハ當然ナリ
(二)定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ定メラレタル社員、合名會社ノ社員ハ原則トシテハ各自代表權ヲ有スト雖モ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テスルト

キハ或社員ヲ限り代表權ヲ有セシムルコトヲ得ルナリ
會社ノ代表權ヲ有スル社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス(商法第六二條第一項)而シテ民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ合名會社ニモ準用セラル(商法第六二條第二項)
民法第四十四條第一項ニ曰ク「法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス」下蓋シ會社ノ代表權アル社員カ會社ノ事務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ直接ニ會社カ他人ニ加ヘタル損害ト見ルモ可ナリ然レトモ理論上ヨリ云ヘハ法人即チ會社ハ或目的ノ範圍内ニ於テノミ存在シ得ヘキモノナルヲ以テ會社ノ目的以外ナル不法行為ハ之ヲ會社ノ行為ト見ル能ハス故ニ商法ハ民法第四十四條第一項ノ規定ヲ準用シテ代表權ヲ有スル社員ノ不法行為ニ付キ會社ヲシテ其責任ヲ負ハシメタルナリ然レトモ此規定ヘ元來責任ナキ會社ニ責任ヲ負ハシメタルモノニシテ責任アル不法行為者ニ責任ヲ免レシメタルモノニアラス故ニ此場合ニハ二人ノ義務者アルヲ以テ被害者ハ何レニ向テモ賠償請求權ヲ有スルナリ

民法第五十四條ニ曰ク理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト本條ハ別ニ説明ヲ要セス唯一言スヘキハ法律上代表權ヲ有スルモノハ當然第六十二條第一項ノ權限ヲ有スルヲ以テ之ヲ制限スルモ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ナルカ故ニ實質的ニ某ハ何々ノ行為ニ付テハ會社ヲ代表スルコト能ハスト制限スルコト能ハス然レトモ數人ノ代表權者ヲ定メタル場合ニ於テ會社ヲ代表スルニハ必ス數人共同ニテ代表ムシト定ムルコトヲ妨ケサルナリ是レ一見代表權ノ制限ノ如クナレトモ其實然ラス何トナレハ代表權其物ハ不可分ナリト雖モ其代表權ヲ組織スルモノハ數人ナラサルヘカラストノ規定ナケレハナリ

第二　會社ノ債權者
(一)會社ノ債權者ニ對シ第一ニ辨濟ノ責ニ任スヘキハ會社ナリ然レトモ會社ノ全財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ責ニ任セサルヘカラス(第六三條)

合名會社ノ社員ハ第三者ニ對シ全財產ヲ以テ辨濟ノ責ニ任スヘキハ何レノ國

ノ商法ニ於テモ同一ナリ然レトモ第一ニ會社財產ヨリ辨濟ヲ求ムヘキカ或ハ直ニ各社員ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルヤ其順序ニ至テハ各商法ニ於テ異ナレリ新商法ハ第六十三條ニ於テ會社財產ヲ以テ第一ニ辨濟シ會社財產ヲ以テ辨濟スルコトヲ得サルトキハ各社員ハ全財產ヲ以テ辨濟セサルヘカラスト規定セリ

新商法ニハ規定ヲ缺クモ會社ニ對スル債務ト社員ニ對スル債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對スル債務トハ之ヲ相殺スルユトヲ得ルヤ否ヤ會社ニ付キ法人主義ヲ採リタル以上ハ會社ト社員トハ各人格ヲ異ニセルヲ以テ特別ノ規定ナキ以上ハ此ノ如キ相殺ハ之ヲ爲ス能ハサルナリ若シ夫レ會社ニシテ組合ニ過キサランカ苟モ特別ノ規定ナケレハ相殺ヲ爲シ得ルナリ故ニ民法第六百七十七條ニ於テハ組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得スト規定セリ

(二)會社ノ債權者ハ會社設立後ノ加入者即チ新入社員ニ對シテモ辨濟ヲ請求スルコトヲ得第六四條會社ヲ以テ法人ト爲セル以上ハ加入ノ前後ヲ問ハス總テ

會社ノ現在ノ債務ニ付キ責任アルヘキ理ナリ然レトモ合名會社ノ性質カ組合ニ近キヨリ見ルトキハ加入前ニ發生シタル債務ニ付テハ責任ヲ負ハスト主張スルコトヲ妨ケサルヤノ疑アリ故ニ法律ハ特ニ之ヲ明言シタルナリ舊商法第百十五條ニ於テハ契約上他ノ定ナキトキハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務ニ付テモ責任ヲ負フト規定シ會社契約ヲ以テ加入前ニ生シタル債務ニ對シテ責任ヲ負ハサルコトヲ規定スルコトヲ認メタリ然レトモ新入社員ヲシテ其加入前ニ生シタル義務ニ付キ責任ヲ負ハシムルハ第三者ニ對スル關係ニ於テ其必要アルナリ已ニ第三者ニ對スル關係ナリトスレハ定款ヲ以テ反對規定ヲ設ケシムルハ主義貫通セサルナリ故ニ新商法第六十四條ハ外部關係トシテ之ヲ規定シ新入社員ハ毎ニ加入前ニ發生シタル義務ニ付テモ責任ヲ負フヘキコトヲ規定シ定款ノ規定ヲ以テ左右スルコトヲ許サルナリ

(三)會社ノ債權者ハ社員ニ非サル者ニシテ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルモノニ對シ辨済ヲ請求スルコトヲ得但此場合ニハ債權者ノ善意ナルコトヲ要ス(第六五條是レ善意ノ第三者ヲ保護スルナリ)

(四)會社ノ債權者ハ會社ヨリ辨済ヲ受クル權利アルヲ以テ社員ノ出資ノ減少ハ會社ノ債權者ニ對シ利害關係ヲ及ホスコト少カラス故ニ法律ハ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ストセリ但本店ノ所在地ニ於テ出資減少ノ登記ヲ爲シタル後二年間債權者カ異議ヲ述ヘサルトキハ其出資ノ減少ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得(第六六條)

(五)利益ノ配當ハ會社財產ヲ社員ニ分配スルモノナルヲ以テ會社ノ債權者ヨリ之ヲ見レハ辨済ヲ受クヘキ會社財產ノ減少ナリ故ニ會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ヌ若シ之ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得(第六七條)

第四節 退社

退社ノ性質ハ會社ニ付キ組合主義ヲ採ルト法人主義ヲ採ルトニ因リテ異ナレリ羅馬法ニ於テハ商事會社ノ如キモノナク社團ハ總テ組合關係ナリシヲ以テ其契約ノ當事者タル人ノ變動ハ極メテ重大ニシテ組合員一人ノ死亡ハ直ニ契約ノ消滅ヲ來セリ然レトモ其後漸次商業上ノ結社發達スルニ至リ社員ノ一人

缺クタルカ爲メ會社ノ消滅ヲ來スハ甚ダ不便ナルヲ以テ現今ニ至リテハ商事會社ヲ以テ組合關係ナリトスル法律ニ於テモ尙社員ノ退社ヲ認メタリ獨乙商法ノ如キ是ナリ然レトモ會社ニシテ組合關係ナル以上ハ一人ノ社員缺クルトキハ其會社ハ原則トシテ消滅スルコトヲ認メサルヘカラス何トナレハ契約關係ニ於テハ十人中一人缺クルトキハ以前ノ契約ナリト云フ能ハナレハナリ又契約ノ變更トモ見ル能ハス何トナレハ契約ノ主體缺クタルヲ以テナリ故ニ獨乙ノ商法ニ於テハ社員ノ退社ハ之ヲ解散ノ章ニ規定セリ然レトモ一人ノ組合員缺クタルカ爲メ常ニ組合關係ノ消滅スルモノトスルハ不便ナルヲ以テ一人ノ社員ノ破産死亡無能力ノ如キハ之ヲ解散原因ナリトセルニ拘ハラス此等ノ原因生スルモ他ノ社員ハ此一人ヲ除名シテ會社ヲ繼續スルコトヲ得ル規定ヲ設ケタリ理論上ヨリ云ヘハ此場合ニ於テモ社員一人ノ死亡破産無能力等ハ會社消滅ノ原因ニシテ殘リノ社員ハ新ナル會社ヲ成立シタルモノト云ハサルヘカラス然レトモ此ノ如キハ甚タ不便ナルヲ以テ法律ノ規定ニ依リ會社ハ消滅セサルモノト看做セルナリ然レトモ我商法ノ如ク會社ニ付キ法人主義ヲ探ル

以上ハ社員カ退社スルモ法人タル會社ノ存立ニ何タル影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス隨テ一人ノ社員ノ脱退ヲ會社解散ノ原因ト認ムヘキ理由ナシ
退社ハ社員關係ノ斷絶ヲ意味ス即チ社員トシテ一定ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノ退社ニ因リテ其關係ヲ斷絶スルナリ而シテ退社ハ後ニ述フル退社原因ノ發生ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得ベキモノニシテ會社ノ内部關係トシテハ其原因ノ發生アレハ退社ヲ成スト雖モ會社ノ外部關係即チ第三者ニ對シテハ登記ニ依リテ退社ノ効フ生ス(第七三條)
退社ヲ區別シテ任意ノ退社ト強制ノ退社トニ區別スルコトヲ得其最要義ハ東
(甲)任意ノ退社又處置員ノ辭職者等ハ手口もあらざる事ナリテモ
第一之定狀ニ存立時期ヲ定メサルトキ員外堅大々の甚う不運者ナリ者云
第二又或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキ合ニ就キ會社
此二箇ノ場合ニ於テハ社員ハ任意ニ退社スルコトヲ得但此場合ニ於ケル任意
ノ退社ハ營業年度ノ終ニ於テシ且ツ六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス(第六
八條第一項)

定款ニ存立時期ヲ定メサル場合ニ於テ何故ニ任意ニ退社スルコトヲ許スヤ蓋シ存立時期ヲ定メサルヲ以テ永久ニ存續セシムル意思ナリト解釋スルコト能ハス何トナレハ若シ社員ノ盡ク死亡スル時期ハ不定ナリ故ニ此場合ニ於テハ會社ハナリ而シテ或社員ノ盡ク死亡スル時期ハ不定ナリ故ニ此場合ニ於テハ會社ノ存立時期ハ不定ナリ然ラハ則チ或社員脱落スルモ甚シキ不都合ナシト云ハナルヘカラス又或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキモ之ト同一理由ナリ即チ或社員ハ明日死亡スルヤモ知レス人ノ生命ハ其最長期ハ豫想シ得ルセ何時死亡スルヤハ之ヲ知ルコト能ハス果シテ然ラハ或社員明日死亡スルコトモ豫期セサルヘカラサルヲ以テ明日退社スルコトモ亦差支ナシト云ハサルヘカラス但社員ノ都合ニ因リテ退社スルモノナルヲ以テ會社ノ利益ヲ保護シ必ス豫告シテ事業年度ノ終ニ於テ退社セシムルナリ

第三 已ムコトヲ得サル事由アルトキ已ムコトヲ得ナル事由アルヤ否ヤハ事實問題ニシテ裁判官ノ自由判断ニ委スルヨリ外ナキナリ而シテ已ムヲ得サル事由アリト認メタル以上ハ會社ノ存立

時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス又退社時期ニ制限ナシ其然ル所以ノモノハ合名會社ハ人的信用ヲ基礎トスルモノナルヲ以テ已ムコトヲ得サル事由アルモノヲ張ヰテ留マランシムルハ穩當ナラサルヲ以テナリ民法第六百七十八條第二項ノ規定モ之ト同一ノ理由ニ基クナリ

第四 總社員ノ同意

總社員ノ同意ニ因リ退社シ得ルコトハ別ニ説明スルヲ要セス

(乙) 強制ノ退社(第六十九條)

第一 定款ニ定メタル事由ノ發生

第二 死亡

第三 破産

第四 禁治產

除名ハ他ノ社員又ハ裁判所ノ命令ニ依リ即チ他人ノ意思ニ依リテ社員タル關係ヲ斷絶セラル、ナリ第七〇條第八三條他ノ社員ノ意思ヲ以テ除名ヲ爲スニ

ハ左ノ二條件具備スルコトヲ要ス

(一)除名セラル、人以外ノ社員カ總テ同意セサルヘカラス

(二)第七十條第一號乃至第五號ノ場合ニ相當セナルヘカラス

而シテ除名ヲ以テ除名セラレタル社員ニ對抗シ得ルニハ尙ホ一ノ條件ヲ要ス

(三)除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルコト

是ナリ

次ニ退社ノ効力ヲ一言セシム

退社シタル社員ハ退社ナル事由ニ因リ社員トシテ會社ニ對シテ有スル法律關係ヲ

係ヲ絶ツナリ然レトモ退社員トシテ更ニ會社ニ對シ一定ノ權利ヲ有シ又第三

者ニ對シ一定ノ義務ヲ有ス

(甲)退社員ノ権利

一、持分ノ拂戻ヲ受クルノ權利會社ハ法人ナリ故ニ社員カ一定ノ出資義務ヲ

履行シタルトキハ茲ニ會社財產成立ス是レ組合關係ト異ナル所ニシテ組合關係

ニ於テハ組合財產ハ直接ニ組合員ノ財產ナレトモ會社ノ場合ニハ會社財產ハ

直接ニ社員ノ財產ニ非ス唯社員ハ會社財產ニ對シ一定ノ持分ヲ有スルノミ隨
テ退社員ハ退社ノ當時會社ニ對シテ有スル持分ノ拂戻ヲ請求シ得ル權利ヲ有
ス合名會社ノ社員ハ務務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲スヲ得而シテ務務又
ハ信用ヲ以テ出資ノ目的トシタル場合ト雖モ第五十條第五號ニ依リ其出資ノ
評價アルヘキ以テ自ラ其持分ノ一定スヘキハ勿論ナリ然レハ退社ノ際ニ此持
分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ルコト他ノ財產ヲ以テ出資ト爲シタル者ト異ナ
ルコトナキナリ(第七一條然レトモ此規定ハ命令規定ニ非ス定款ニ於テ反對規
定ヲ設クルコトヲ妨ケサルナリ(同上末文))
二、會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用井タルトキハ其氏又ハ氏名ノ使用
ヲ止ムヘキコトヲ請求シ得ル權利(第七二條)會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ
氏名ヲ用井シムルトキハ第三者ヲシテ社員ナリト信セシムル處アリ隨テ第六
十五條ノ規定ニ依リ社員ト同一ノ責任ヲ負フヘキ危險アルヲ以テ退社員ハ其
使用ヲ止メシムル權利ナカルヘカラス

(乙)退社員ノ義務

退社員ハ退社ニ因リテ社員關係ヲ絶ツト雖モ退社以前ノ關係ニ付テハ普通ノ社員ト同ク權利ヲ有シ義務ヲ負ハサルヘカラス蓋シ退社員ハ退社ノ當時會社ニ對シテ有スル持分相當ノ權利ノ配當ヲ請求シ得ル權利ヲ有スルト同時ニ又持分相當ノ義務ヲモ負擔セサルヘカラス即チ第三者ニ對シテハ退社前ノ會社ノ義務ニ付キ退社後ト雖モ尙ホ全財產ヲ以テ其義務ヲ盡サルヘカラス而シテ退社ハ第三者ニ對シテハ登記セサレハ効力ナシ故ニ登記前ノ會社ノ義務ニ付テハ總テ其責任ヲ負ハサルヘカラス但此責任ハ退社ノ登配後二年ヲ經過シタルトキハ消滅スルモノトス(第七三條第一項)

尙ホ一言スヘキハ持分ノ讓渡ナリ持分ヲ讓渡シタル社員ヘ一ノ退社員ナリ何トナレハ退社ナルモノハ社員關係ノ斷絶ナリ持分ノ讓渡セ社員關係ノ斷絶ナリ唯異ナル所ハ普通ノ退社ハ退社ニ因リ社員數ヲ減スレトモ持分ノ讓渡ニ因ル退社ハ社員其人ハ異ナルモ社員數ニ變動ナシト云フノミ故ニ第七三條第二項ハ退社員ニ關スル規定ヲ持分ヲ讓渡シタル社員ニ準用セリ

第五節 解散

解散ノ性質ハ讀ンテ字ノ如ク會社ノ解體ニシテ人格ヨリ云ヘハ法人ノ死亡ナリ然レトモ後ニ清算ノ節ニ詳説スル如ク解散ニ因リ法人カ全ク死亡スルモノトハ云フ可カラス解散アレハ會社ハ其目的タル業務ヲ停止セサルヘカラスト雖モ其從前ノ業務ニ依リテ負フ所ノ義務又其業務ニ依リテ得タル權利ハ解散ニ因リ當然消滅スルモノニアラス即チ解散アルモ尙ホ從來ノ權利義務ハ清算ノ手續ヲ終ラサル間ハ會社ノ權利トシテ又會社ノ義務トシテ存在セサルヘカラス若シ解散ニ因リ會社ナル法人死亡スルモノトセハ其權利義務ハ何人ノ權利義務ナルヤタ知ル能ハス故ニ解散ハ會社ノ死亡ト云ハシヨリハ專ロ會社ノ生產力ノ絶滅ト云フヘキナリ然レトモ又一方ヨリ觀察スルトキハ會社ハ自然人ト異ナリ自然的ニ生存目的ヲ有スルモノニアラス國家カ或目的ノ存在ヲ認メテ茲ニ始メテ法人成立ス即チ法人ハ此目的ノ存スル所ニ存在スルモノナルヲ以テ此目的以外ニハ法人ナシト云ハサルヘカラス而シテ商事會社ノ目的ハ或商業ナリ其商業ヲ爲ス勤即チ生產力滅亡スルトキハ會社ノ目的ノ滅亡ヲ致スナリ其目的ノ滅亡ハ即チ會社ノ死亡ナリトノ論モ敢テ不當ナリトハ斷言スル

能ハス

會社解散ノ原因ハ種々アリト雖モ之ヲ二大別スルトキハ有意ノ解散無意ノ解散ト爲ストヲ得

有意的解散ノ原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一)存立時期ノ満了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
會社ノ存立時期ハ定款ニ依リテ定マルナリ或ハ曰ク存立時期ハ必スシモ之ヲ定款ニ記載セサル可カラサルニ非ス他ノ契約ヲ以テ之ヲ定ムルモ敢テ無効ニ非スト然レトモ存立時期ヲ定メタル契約ハ定款外ノ一種ノ契約ナリヤ或ハ是レ亦定款ノ一部ナルヤノ疑問ヲ生スヘシ定款ハ必スシモ一通ノ書面ナラサル可カラサルニ非サルナリ若シ又此契約ニシテ定款ノ形式ヲ缺クカ爲メニ定款トシテ効力ナシトスレハ果シテ之ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定ムルコトヲ得ヘキヤ商法第五十一條ニ規定シタル登記事項中ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ト規定シタルニ拘ハラス第五十條ノ定款事項中ニ存立時期ノ記載ナシト云フヲ以テ直ニ存立時期ヲ定ムルニハ必スシモ定款ヲ以テスルコトヲ要セスト論スル

リ

(二)信用ハ貯蓄ヲ獎勵ス
直接ニ使用スルノ機會ナキ程ノ小額ノ資金ヲ預リテ
相當ノ利子ヲ附スル貯蓄銀行預金銀行等ノ設備アルハ大ニ貯蓄ヲ獎勵スルモノナリ

(三)信用ハ金銀ノ使用ヲ節約ス
現近ノ文明國ニ於ケル交換ノ大部分ハ信用證券ノ媒介ニヨリテ行ハル、モノナリ特ニ遠隔ノ土地ノ間ニ行ハル、巨額ノ仕拂ハ此方法ニヨルノ外他ニ便法ナシトイフコトヲ得ヘシ
(四)信用ハ無資財者ノ急ヲ救フ
信用ハ人ヲシテ其人ノ未來ノ收入ヲ引キ當トシテ現在ニ他人ノ貨財ヲ利用スルノ機會ヲ得セシムルモノナリ隨テ不慮ノ災害若クハ其他ノ理由ニヨリテ一時ニ巨額ノ仕拂ヲ要スル場合ニ於テハ一時他人ノ貨財ヲ借リテ其急ニ應タ長キ期間ニ涉リ分割シテ返済スルコトニヨリ大ニ災害ヨリ生スル苦痛ヲ減少スルコトヲ得ヘシ

第一項 信用ノ害

(一)信用ハ浪費ヲ催進ス
信用ハ人ヲシテ他人ノ財産ヲ借入レ之ヲ處置スルノ

(一) 機能ヲ得セシムルモノナルカ故ニ不謹慎ナルモノハ一時其掌中ニ歸タル資産ノ分量多キニ任セ身分不相應ナル濫費ヲナスニ至ルコトアリ

(二) 信用ハ不確實ナル企業ヲ誘起ス借用資金ヲ以テスルモノハ自己所有ノ資金ヲ以テ業ヲ營ムモノニ比スレハ往々其成功ノ目途不確實ナル業務ヲ企ツルモノナリ

(三) 信用ヘ投機ヲ獎勵ス信用ハ僅少ノ資力アルモノヲシテ一時巨額ノ資金ヲ處置スル權能ヲ得セシムルモノナルヲ以テ屢々投機者ノ乱用スル所トナルモノナリ而シテ其投機失敗ニ丁ルトキハ其結果トシテ産業社會ニ恐慌ヲ來タスコトアリ

第五章 貨幣ノ代用物

貨幣ノ使用ハ交換ニ非常ナル便宜ヲ與フルモノナリ然レトモ交換ノ行ハル、度毎ニ金錢ノ授受ヲ要スルハ貨物ノ取引ヲ容易ナラシムル道ニ於テ未タ盡シタルモノトイフヘカラス而シテ交換ノ媒介トシテ獨リ貨幣ノミヲ使用スルトキハ極メテ巨額ナル金銀ノ供給ヲ必要トス然ルニ金銀ハ他ノ貨物ノ分量又ハ

(a) 貨物ノ取引ノ増加ニ伴フテ相並ヒテ増加セサルカ故ニ世人ハ他物ヲ以テ貨幣ニ代リテ交換ノ媒介ヲナサシムルニ至レリ
貨幣ノ重ナル代用物ハ信用證券及紙幣ナリ信用證券ノ價ヲ有スルハ之ヲ流通セシブル人カ證券ニ對シテ貨幣ヲ仕拂フコトヲ約シ世人カ其約束ヲ信用スルカ故ニシテ金屬貨幣ト異ナリ其材料中ニ真價ヲ有スルモノニハアラサルナリ
信用證券ノ分類種々ノ標準ニヨリ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ

一、發行者ノ人格ニヨリテ區別スルトキハ
(a) 國家、府、縣、市、町、村等ノ公共團體ノ發行シタル債券ヲ公ノ信用證券トイフ(例ヘハ借金ヘハ國債地方債證券ノ如キ)

(b) 一私人又ハ私團體ノ發行シタルモノヲ私ノ信用證券トイフ(例ヘハ借金證書手形等ノ如キ)

二、仕拂ヲナスヘキ人ニヨリテ區別スルトキハ

(i) 信用證券ノ發行者カ直接ニ債務ノ仕拂ヲナスヘキコトヲ約束スルモノ(例ヘハ借金證書約束手形等ノ如キモノ)ト

(b) 第三者ニ對シテ發行者ニ代リテ支拂ヲナスヘキコトヲ依頼スルモノ(例ヘハ爲替手形小切手等)トアリ

三、債務ノ履行ノ時期ニヨリテ區別スルトキ

(a) 一覽拂證券 發行者又ハ發行者ヨリ仕拂ヲ依頼セラレタル人ハ信用證券ヲ呈示セラレタルトキハ直ニ仕拂ヲナスヘキモノヲイフ(例ヘハ一覽拂ノ手形小切手等ノ如シ)

(b) 定期拂證券 多數ノ借用證書及手形等之ニ屬ス證券面ニ記載セラレタル一定ノ期日ニ達セサレハ債務者ハ仕拂ヲナスヲ要セサルモノナリ

(c) 不定期拂證券 債權者若クハ債務者ノ一方若クハ双方カ通知權ヲ有スル場合ト双方其ニ之ヲ有セサル場合トアリ當事者カ通知權ヲ有スル場合ニ於テハ其通知ヲナシタルトキ若クハ通知後一定ノ期日ニ達スレハ債務者ハ仕拂ヲナズヘキモノナリ又双方共ニ通知權ヲ有セサルモノハ例ヘハ永久公債ノ如ク双方ノ同意アルニアラサレハ債務ヲ消滅セシムル機會ナキモノヲイフ

四、移轉ノ方法ニ關シテ信用證券ヲ區別スルトキハ

- (a) 記名式證券 證券ノ表面ニ記載シタル宛名ノ人ニヨリ仕拂フヘキモノヲイフ而シテ此證券ノ所有權ヲ移轉スルニハ債權譲リ渡シニ必要ナル條件ヲ具フルコトヲ要ス又證券ノ種類ニヨリ其上ニ公ノ帳簿ニ登記スルコトヲ要スルモノアリ例ヘハ記名式公債證書記名式ノ株券等ノ如シ
- (b) 指圖式證券 證券ノ表面ニ記載シタル宛名ノ人又ハ其人ノ指定セシ人ニ仕拂フヘキコトヲ記載セルモノヲイフ而シテ此種ノ證券ヲ譲リ渡スニハ其所有者ハ通常其證券ノ裏面ニ署名捺印シ又ハ署名捺印ニ加ヘテ表面ノ金額ノ仕拂ヲ受クル權利ヲ譲リ渡ス旨ヲ明記シ之ヲ相手方ニ引渡スコトヲ要スルナリ例ヘハ指圖式ノ約束手形爲替手形等ノ如キモノヲイフ
- (c) 無記名式證券 證書ノ表面ニ仕拂ヲ受クヘキ人ヲ指定セサル證券ヲイフ此證券ノ移轉ハ單ニ引渡ニヨリテ之ヲナスコトヲ得ヘク少シモ他ノ方式ヲ要セサルモノナリ例ヘハ無記名公債證書銀行紙幣等ノ如キモノヲイフ貨幣ノ代用物トシテ最廣々使用セラル信用證券ハ次ノ四種ナリ

1. 約束手形 トハ手形ノ發行人カ其手形ノ受取人又ハ指圖人又ハ其手形ノ持參人ニ一覽次第又ハ一定ノ期日ニ一定ノ金額ヲ自ラ仕拂ハントノ約束ヲ記載シタル證券ヲイフ而シテ手形ノ受取人又ハ所持人ハ裏書讓リ渡シ又ハ引渡ニヨリテ券面ノ金額ヲ第三者ニ仕拂フヘキコトヲ發行人ニ指圖スルコトヲ得ヘシ此方法ニヨリ手形ノ所持人ハ手形ヲ以テ負債仕拂ノ具トナスコトヲ得ヘク最後ノ所持人カ仕拂ノ爲ニ手形ヲ發行人ニ呈示スルマテニハ數回ノ交換ヲ媒介スルコトヲ得ヘシ

2. 小切手 トハ其發行人カ銀行ニ對シテ受取人又ハ其指圖人又ハ持參人ニ一定ノ金額ヲ仕拂フヘキコトヲ依頼スル證券ナリ此證券ハ銀行ニ預金ヲナシ又ハ豫メ銀行ト信用約束アル場合ニノミ發行スルコトヲ得ヘシ

3. 爲替手形 トハ手形發行人カ他人仕拂人ニ宛テ一定ノ金額ヲ或第三者ニ仕拂フヘシトノ依頼ヲ記載シタル證券ヲイフ此證券ハ特定ノ人又ハ其指圖人又ハ所持人ニ仕拂フヘキモノトナスコトヲ得ヘク一覽拂ナルモアリ又定期拂ナルモノモアリ此證券モ亦仕拂ノ爲ニ呈示セラル、前ニ數多ノ交換又ハ

仕拂ノ用ニ供セラル、モノナリ又銀行者ハ手形ヲ買ヒ入レ又ハ遠隔ノ地ヘ送金セント欲スルモノニ手形ヲ賣渡スモノナリ

4. 銀行紙幣 トハ銀行ノ發行シタル一ノ約束手形ニシテ持參人ノ要求次第仕拂ハルヘキモノナリ而シテ形式上他ノ約束手形ト少シモ異ナル所ナシト雖モ小切手其他ノ手形ハ商取引ニ基キテ發行セラレタルモノニシテ銀行紙幣ハ故意ニ交換ノ媒介物タラシメンカ爲ニ發行シタルモノナルヲ以テ多少實質上ノ差異アリトイコトヲ得ヘシ又強制力ヲ有スル紙幣ニ付テハ別ニ章ヲ代ヘテ之ヲ論スヘシ

第六章 銀行

信用取引ハ債主ト負債主トノ間ニ直接ニ行ハレ又ハ債主ト負債主トノ間ニ立チテ資本ノ需要ト供給トヲ結合セシムルコトヲ勉ムル第三者ノ共力ニヨリテ間接ニ行ハル

直接ノ信用ニ伴フ不便ナル點ハ左ノ如シ

一、債主負債者相互間ノ欲望ヲ知悉スルノ機會少シ

二、債主ノ負債主ノ仕拂能力ニ對シテ置ク所ノ信認ノ缺乏セルコト
三、債主負債主ノ要求スル條件一致セサルコト

(イ)貸シ又ハ借ラント欲スル金額ニ付テ

(ロ)返済ノ時期及方法ニ付テ

(ハ)利子ノ歩合ニ付テ

銀行トハ自己ノ計算ト危險トヲ以テ信用取引ノ媒介ヲ以テ業トナスモノライ
フ銀行ハ自ラ債務者トナリテ資金ノ餘リアル所ヨリ借り入レ自ラ債權者トナ
リテ資金ノ足ラサル所ニ貸付クルコトヲ業トナスモノナリ而シテ營業上ノ熟
練ト同業者間ノ聯合及其取扱フ所ノ資金ノ巨大ナルコトヨリシテ其仕拂能力
ニ關シテ世間ニ信用ヲ博シ又負債者ノ仕拂能力ヲ探クルニ付テ特別ナル便宜
フ有スルモノナリ

銀行業ハ一個人企業ヨリモ寧ロ團體企業ニ適スルモノナリトイフフ得ヘシ團
體企業ナルトキハ信用ヲ得ルノ基礎タル資金ヲ隨意ニ増加スルコトヲ得ヘク
又貸借對照表ノ公示セラル、コトニヨリテ一般ノ信用ヲ博スルコトヲ得レハ

○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通
信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ單紙ニ問題ト其疑點

ヲ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ

半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メタ

ル質疑ハ回答セス

亂筆讀ミ難キモノ趣意不明ナルモノ

亦同シ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義錄

ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘ
シ

葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十二年十一月廿四日印刷

明治三十二年十一月廿五日發行

發行者 東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地
編輯者 小田幹治郎

印刷者 東京市芝區西ノ久保舟町十一番地
金子鐵五郎

印刷所 東京市芝區西ノ久保舟町十一番地
金子活版所

發行所 司法省指定期和佛法律學校
所在 (東京市麹町區富士見
町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

(明治廿二年十一月九日內務省許可)